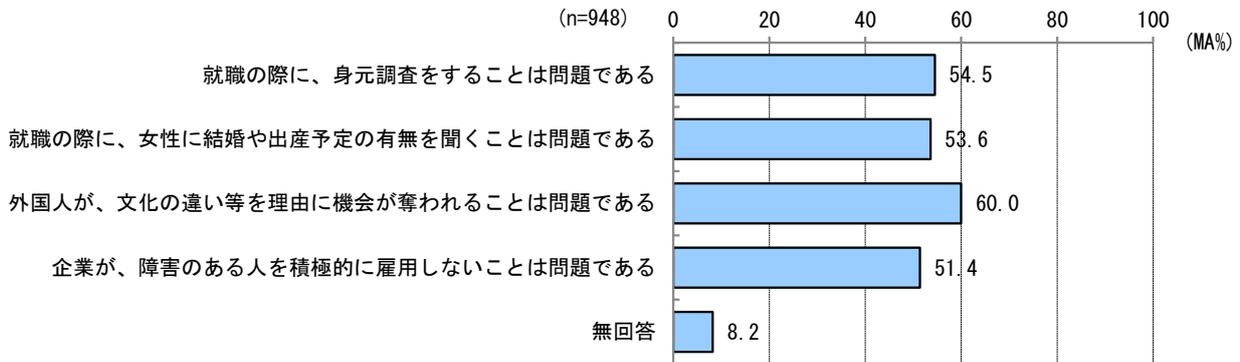


### 3. 日常での人権意識について

#### (1) 就職の場面で問題と思うこと

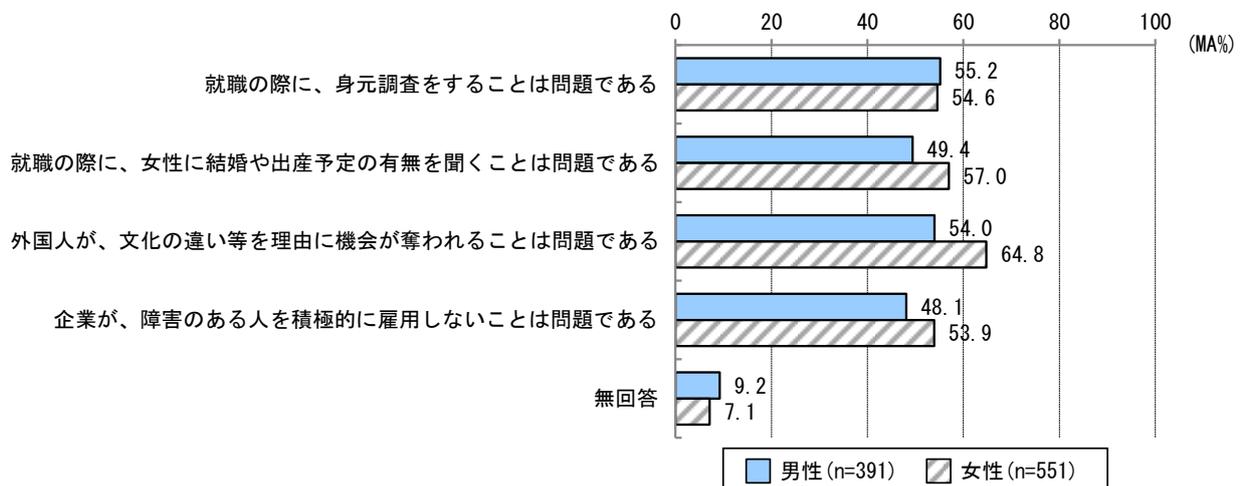
問8 就職における場面について、あなたが「そう思う」ものに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

【図3-1 就職の場面で問題と思うこと】



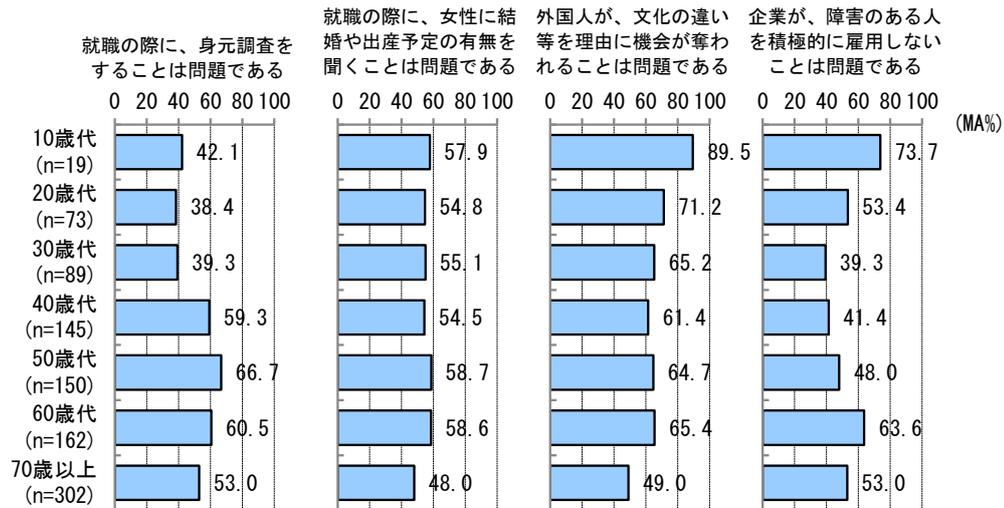
就職の場面で問題と思うことについて、いずれの場面も50%以上となっており、なかでも「外国人が、文化の違い等を理由に機会が奪われることは問題である」が60.0%と最も高い割合になっています。(図3-1)

【図3-1-1 就職の場面で問題と思うこと (性別)】



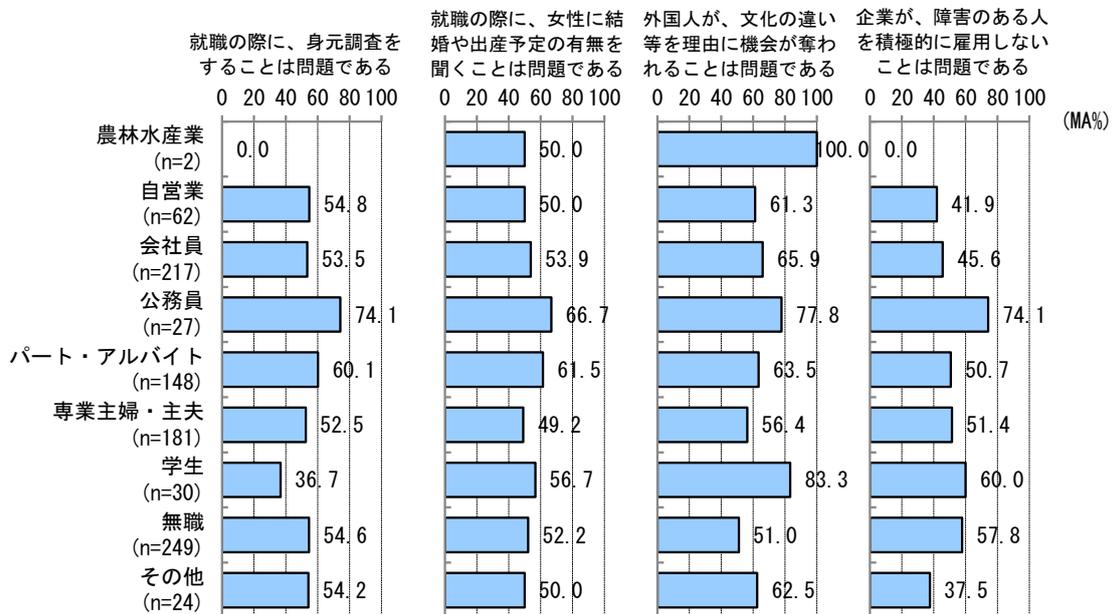
性別でみると、多くの項目で、女性が、男性に比べて高い割合になっており、「外国人が、文化の違い等を理由に機会が奪われることは問題である」が10.8ポイント差、「就職の際に、女性に結婚や出産予定の有無を聞くことは問題である」が7.6ポイント、「企業が、障害のある人を積極的に雇用しないことは問題である」が5.8ポイント差となっています。(図3-1-1)

【図3-1-2 就職の場面で問題と思うこと（年代別）】



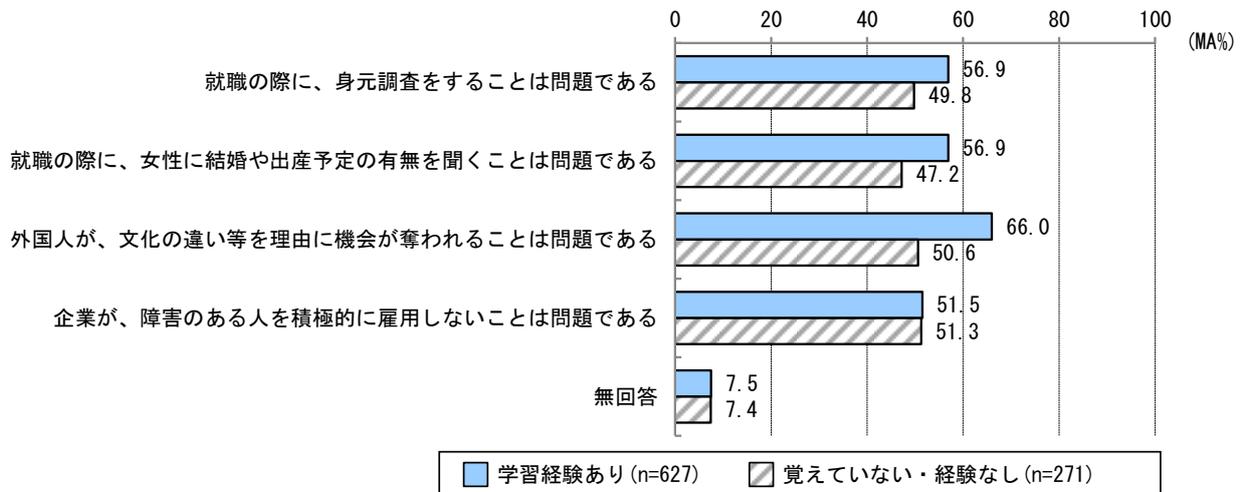
年代別でみると、「就職の際に、身元調査をすることは問題である」では、40歳以降の各年代で50%以上となっていますが、40歳未満の各年代では10ポイント以上低い割合になっています。「企業が、障害のある人を積極的に雇用しないことは問題である」では、20歳代及び60歳代・70歳以上で50%以上となっていますが、30歳代から50歳代の各年代が比較的低い割合になっています。（図3-1-2）

【図3-1-3 就職の場面で問題と思うこと（職業別）】



職業別でみると、無職では「企業が、障害のある人を積極的に雇用しないことは問題である」が最も多く、それ以外の職業では「外国人が、文化の違い等を理由に機会が奪われることは問題である」が最も多くなっています。（図3-1-3）

【図3-1-4 就職の場面で問題と思うこと（人権問題についての学習経験の有無別）】

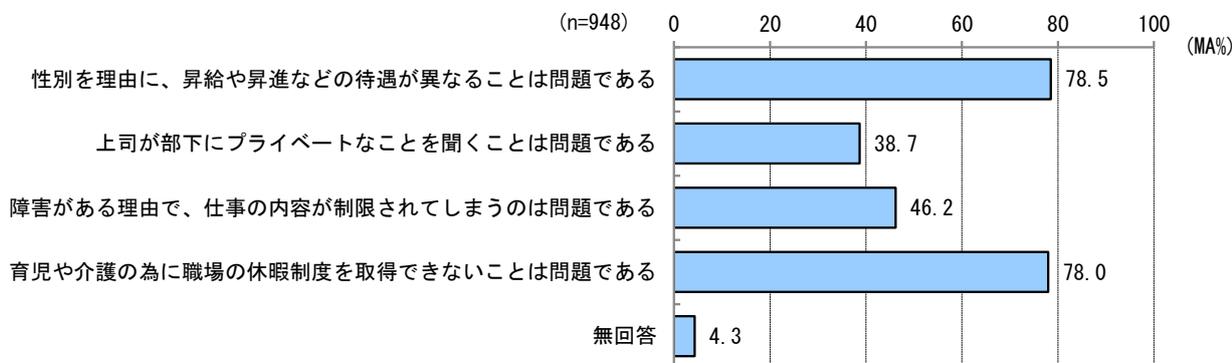


人権問題についての学習経験の有無別でみると、多くの項目で、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合になっており、「外国人が、文化の違い等を理由に機会が奪われることは問題である」が15.4ポイント差、「就職の際に、女性に結婚や出産予定の有無を聞くことは問題である」が9.7ポイント差、「就職の際に、身元調査をすることは問題である」が7.1ポイント差となっています。(図3-1-4)

## (2) 職場の場面で問題と思うこと

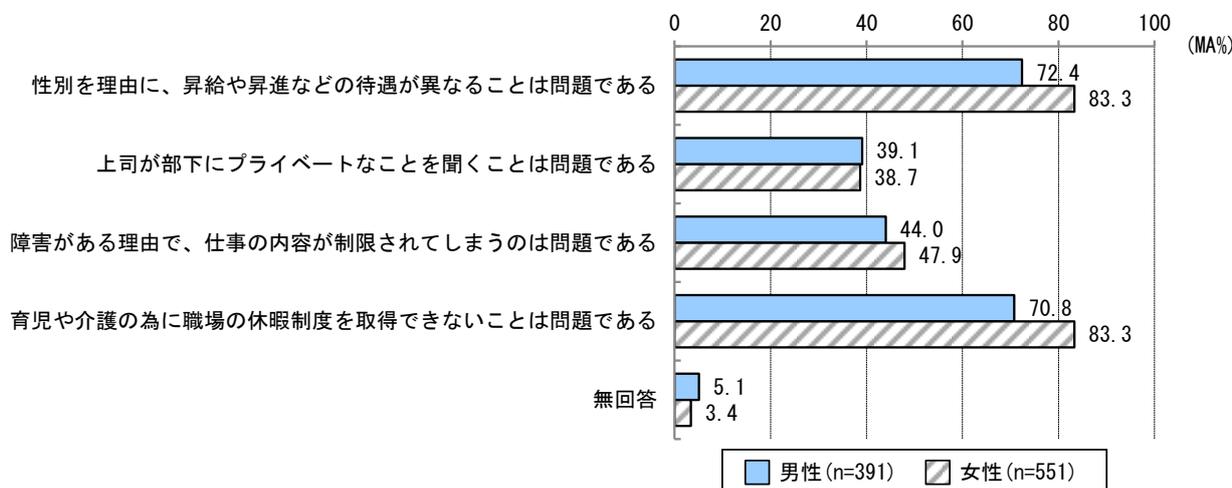
問9 職場における場面について、あなたが「そう思う」ものに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

【図3-2 職場の場面で問題と思うこと】



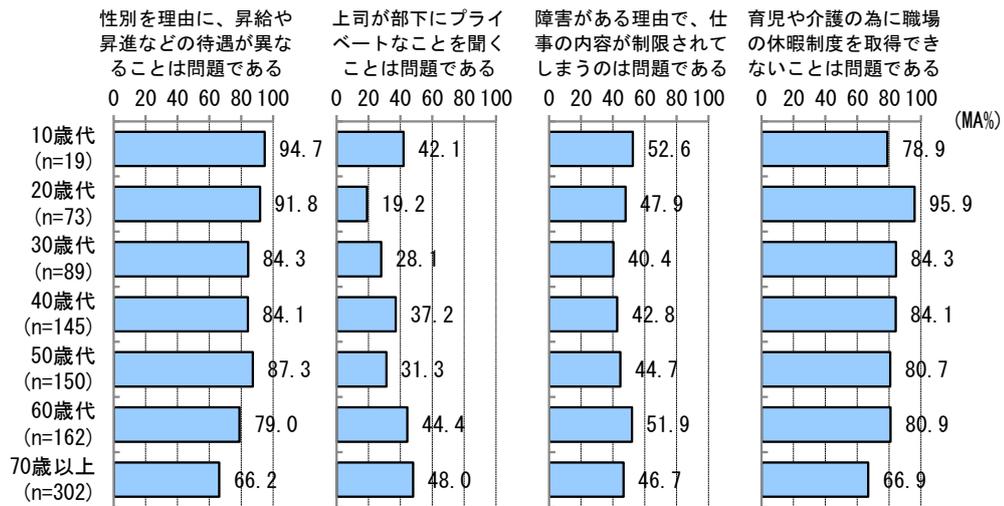
職場の場面で問題と思うことについて、「性別を理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは問題である」が78.5%で最も多く、次いで「育児や介護の為に職場の休暇制度を取得できないことは問題である」が78.0%、「障害がある理由で、仕事の内容が制限されてしまうのは問題である」が46.2%となっています。(図3-2)

【図3-2-1 職場の場面で問題と思うこと (性別)】



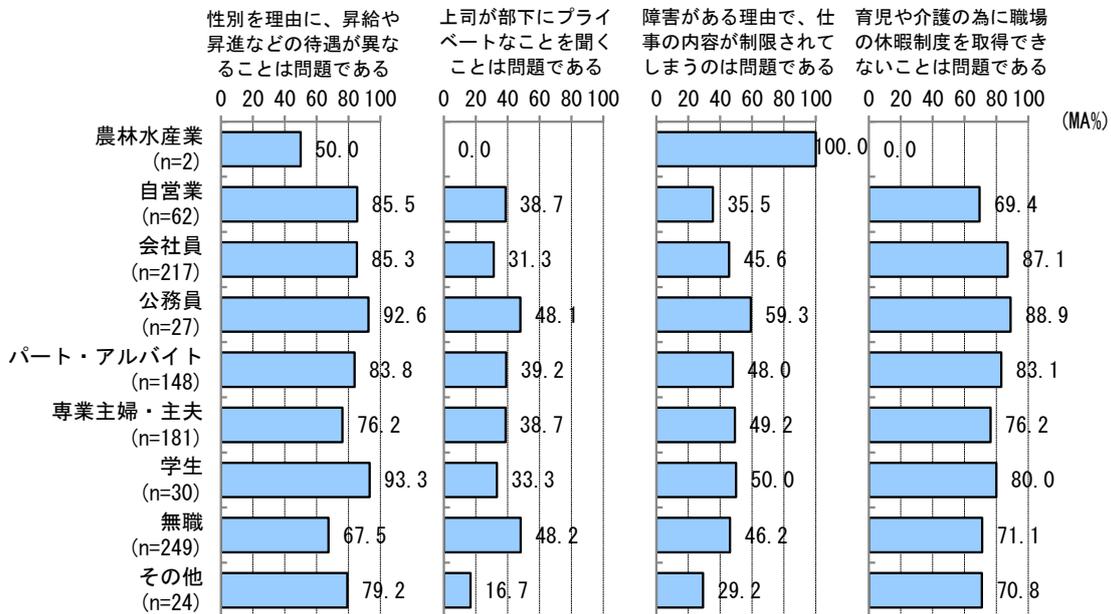
性別で見ると、女性では「性別を理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは問題である」と「育児や介護の為に職場の休暇制度を取得できないことは問題である」がともに83.3%で最も多く、どちらも男性と比べて10ポイント以上高い割合になっています。(図3-2-1)

【図3-2-2 職場の場面で問題と思うこと（年代別）】



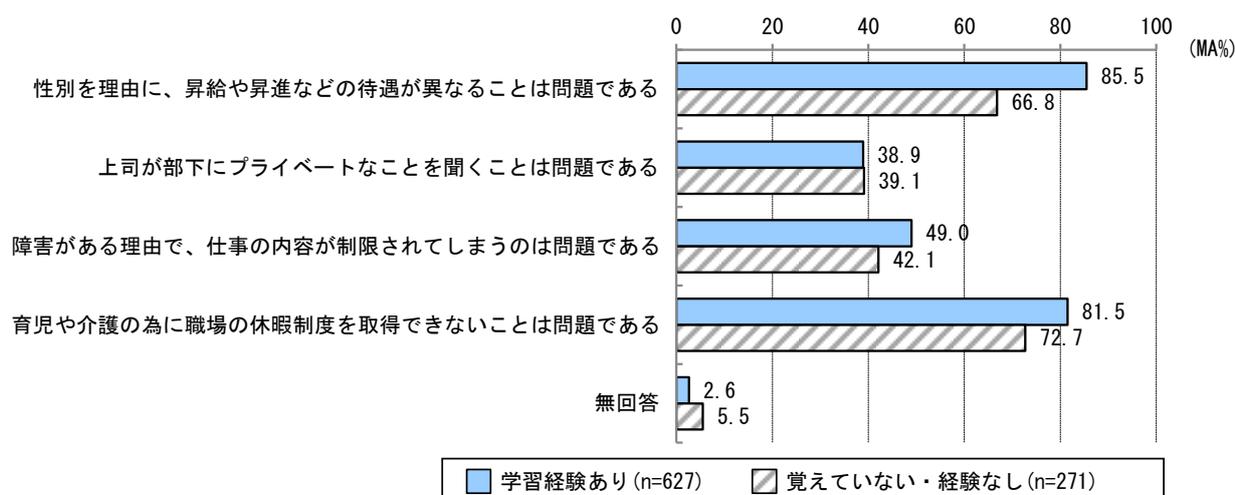
年代別でみると、若い年代ほど、「性別を理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは問題である」と「育児や介護の為に職場の休暇制度を取得できないことは問題である」の割合が高くなる傾向にあります。一方、高齢になるほど「上司が部下にプライベートなことを聞くことは問題である」の割合が高くなる傾向にあります。（図3-2-2）

【図3-2-3 職場の場面で問題と思うこと（職業別）】



職業別でみると、自営業や公務員、パート・アルバイト、学生では「性別を理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは問題である」が最も多く、会社員や無職では「育児や介護の為に職場の休暇制度を取得できないことは問題である」が最も多くなっており、専業主婦・主夫では両項目が同率で最も多くなっています。（図3-2-3）

【図3-2-4 職場の場面で問題と思うこと（人権問題についての学習経験の有無別）】

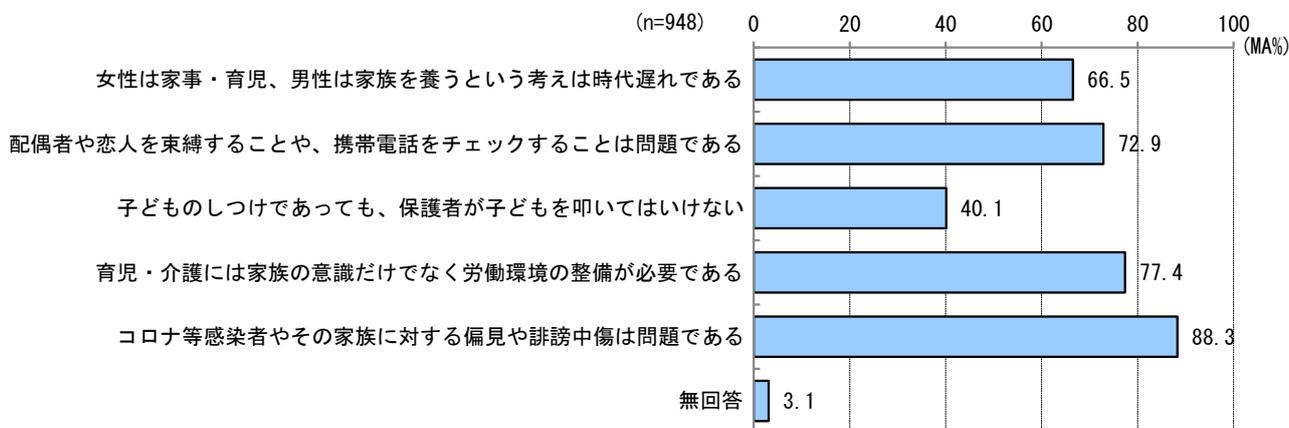


人権問題についての学習経験の有無別でみると、多くの項目で、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となっており、「性別を理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは問題である」が18.7ポイント差、「育児や介護の為に職場の休暇制度を取得できないことは問題である」が8.8ポイント差、「障害がある理由で、仕事の内容が制限されてしまうのは問題である」が6.9ポイント差となっています。（図3-2-4）

### (3) 家庭生活の場面で問題と思うこと

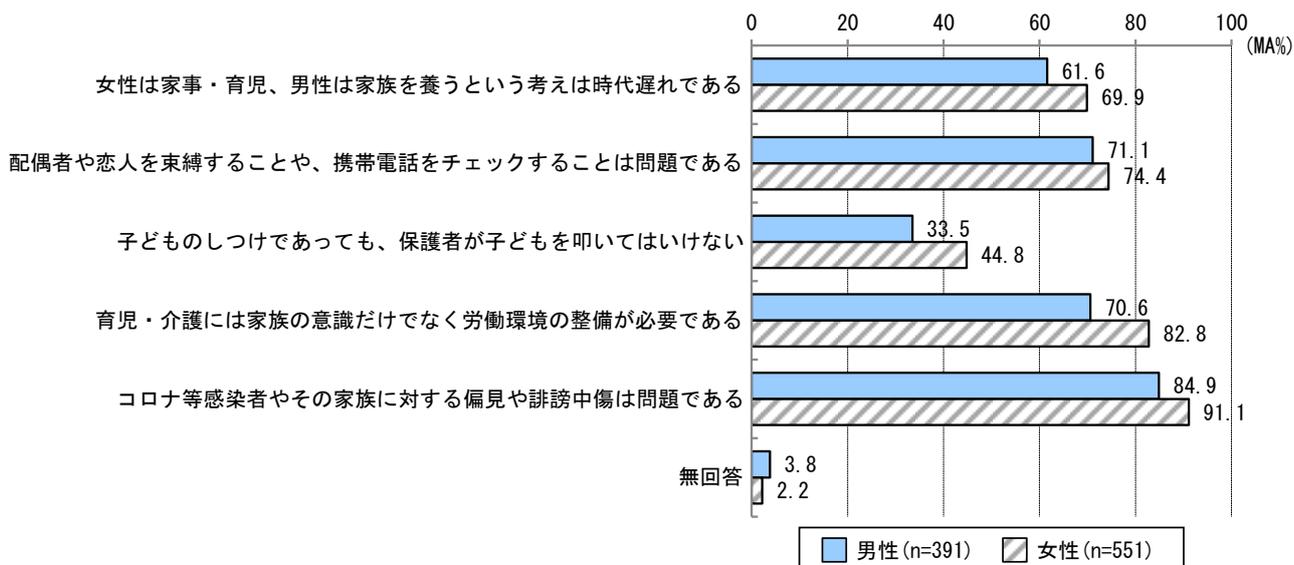
問10 家庭生活の場面で問題について、あなたが「そう思う」ものに○をつけてください。  
(○はいくつでも)

【図3-3 家庭生活の場面で問題と思うこと】



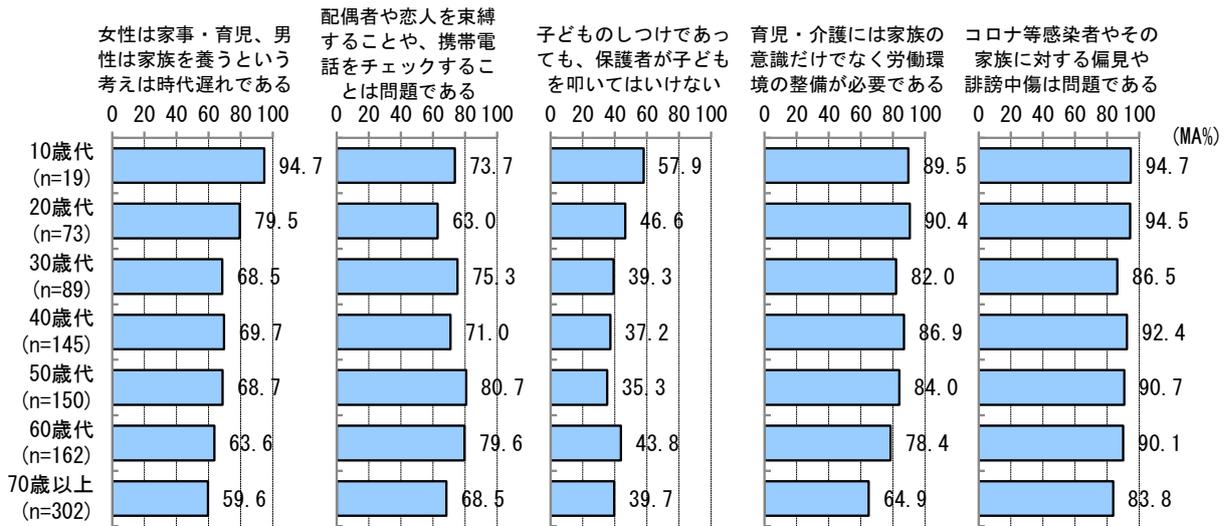
家庭生活の場面で問題と思うことについて、「コロナ等感染者やその家族に対する偏見や誹謗中傷は問題である」が88.3%で最も多く、次いで「育児・介護には家族の意識だけでなく労働環境の整備が必要である」が77.4%、「配偶者や恋人を束縛することや、携帯電話をチェックすることは問題である」が72.9%となっています。「子どものしつけであっても、保護者が子どもを叩いてはいけない」は40.1%にとどまっています。(図3-3)

【図3-3-1 家庭生活の場面で問題と思うこと (性別)】



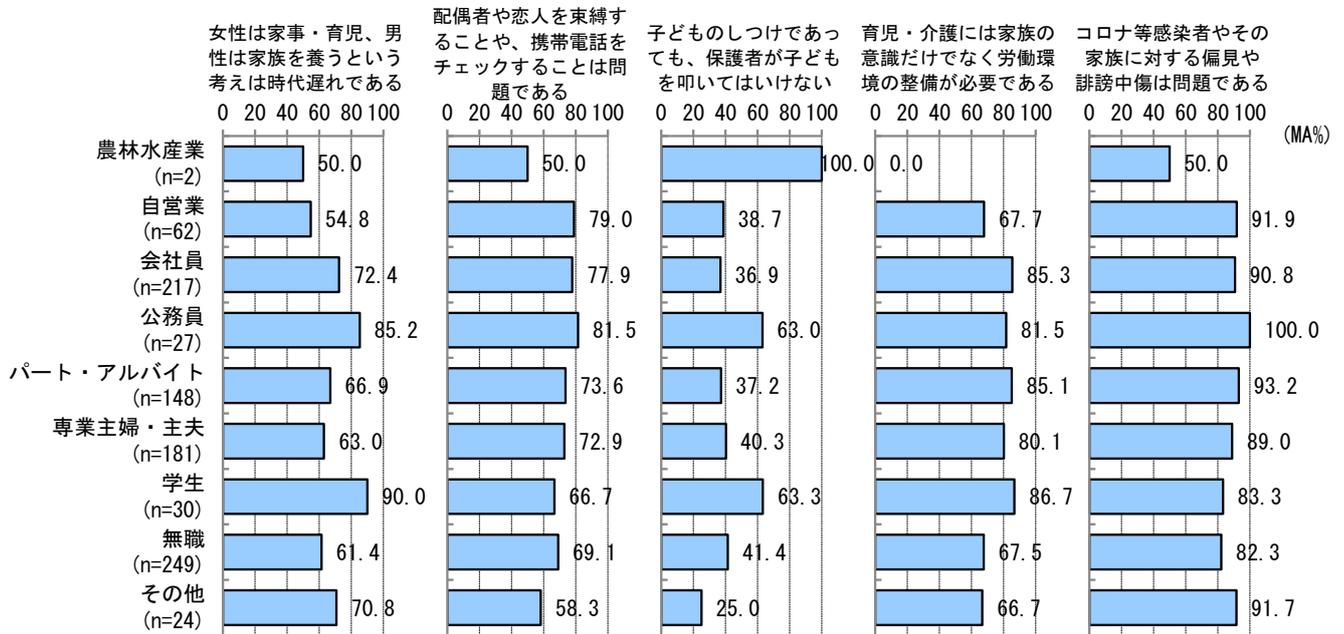
性別で見ると、いずれの項目も、女性が、男性に比べて高い割合になっており、なかでも「子どものしつけであっても、保護者が子どもを叩いてはいけない」と「育児・介護には家族の意識だけでなく労働環境の整備が必要である」は10ポイント以上の差があります。(図3-3-1)

【図3-3-2 家庭生活の場面で問題と思うこと（年代別）】



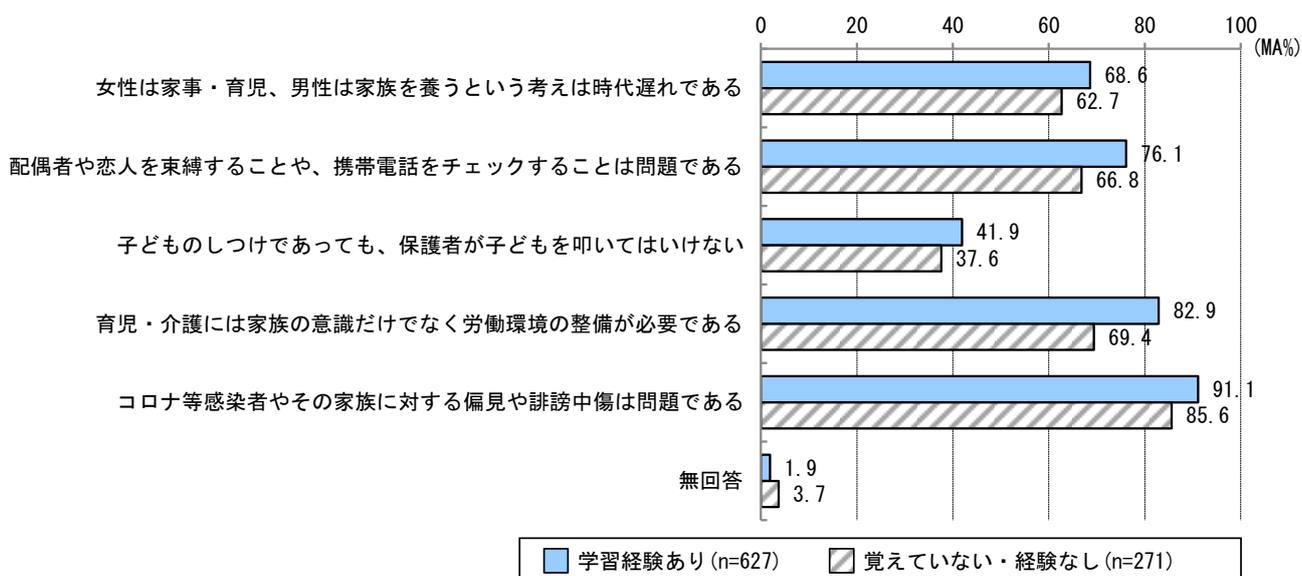
年代別でみると、若い年代ほど「女性家事・育児、男性は家族を養うという考えは時代遅れである」や「育児・介護には家族の意識だけでなく労働環境の整備が必要である」、「コロナ等感染者やその家族に対する偏見や誹謗中傷は問題である」の割合が高くなる傾向にあります。（図3-3-2）

【図3-3-3 家庭生活の場面で問題と思うこと（職業別）】



職業別でみると、学生では「女性家事・育児、男性は家族を養うという考えは時代遅れである」が最も多く、それ以外の職業では「コロナ等感染者やその家族に対する偏見や誹謗中傷は問題である」が最も多くなっています。（図3-3-3）

【図3-3-4 家庭生活の場面で問題と思うこと（人権問題についての学習経験の有無別）】

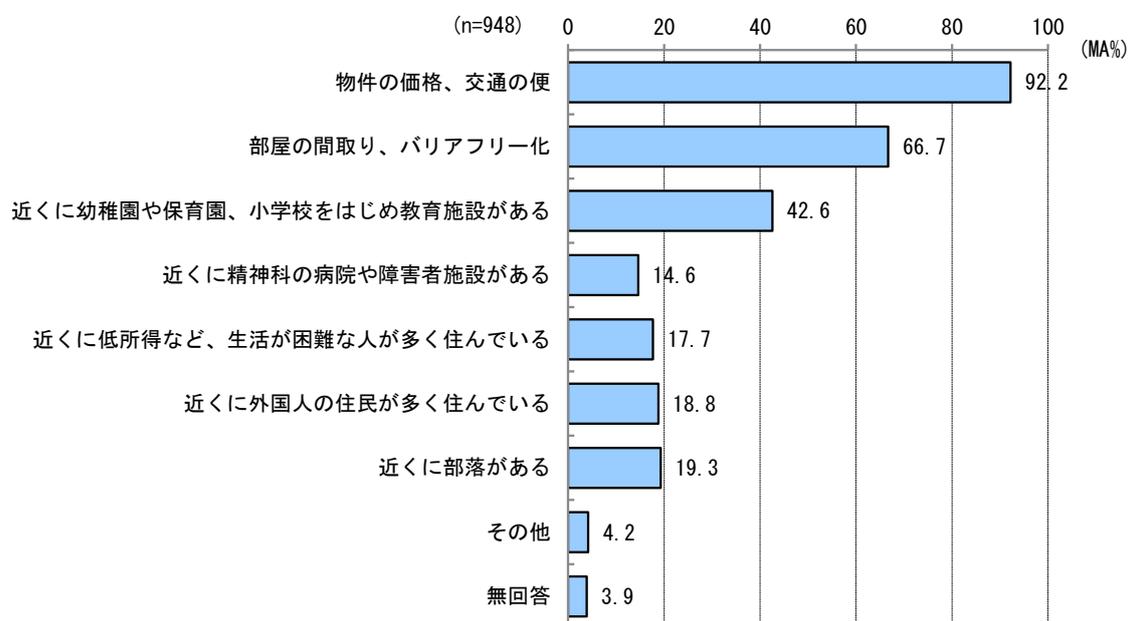


人権問題についての学習経験の有無別でみると、いずれの項目も、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合になっており、なかでも「育児・介護には家族の意識だけでなく労働環境の整備が必要である」が13.5ポイント差と大きくなっています。（図3-3-4）

#### (4) 住宅を選ぶ際に気になる項目

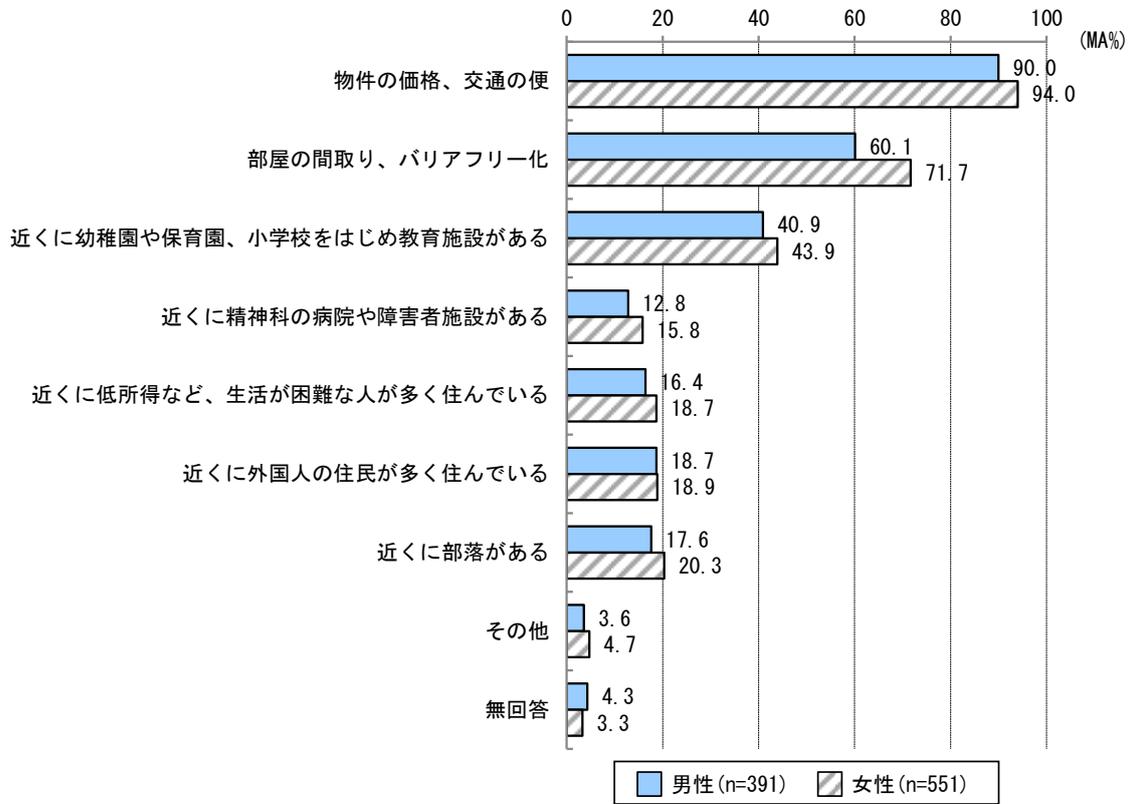
問11 家を購入したり、借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、気になる項目に○をつけてください。(○はいくつでも)

【図3-4 住宅を選ぶ際に気になる項目】



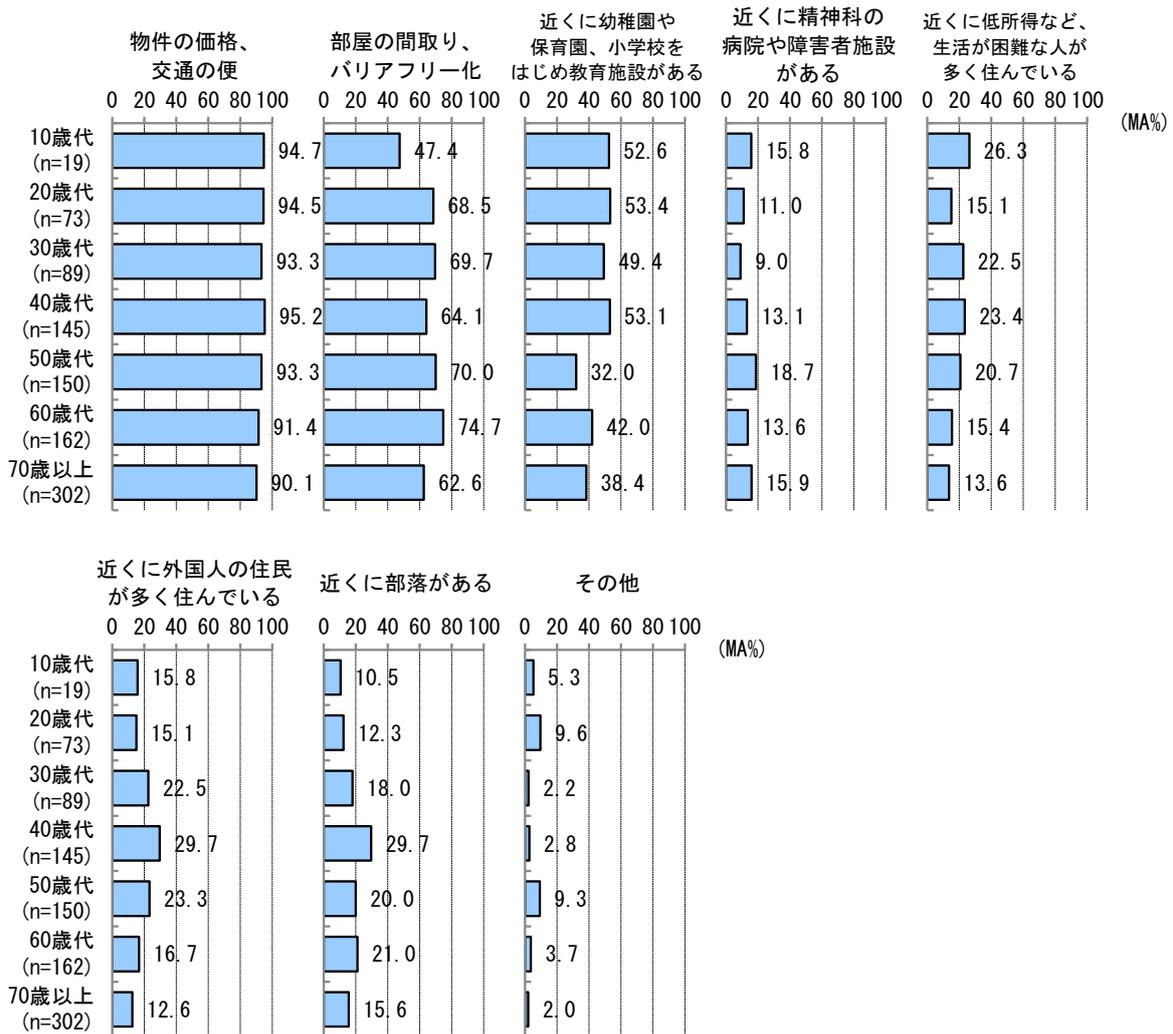
住宅を選ぶ際に気になる項目について、「物件の価格、交通の便」が92.2%で最も多く、次いで「部屋の間取り、バリアフリー化」が66.7%、「近くに幼稚園や保育園、小学校をはじめ教育施設がある」が42.6%となっています。また、「近くに部落がある」が19.3%、「近くに外国人の住民が多く住んでいる」が18.8%、「近くに低所得など、生活が困難な人が多く住んでいる」が17.7%となっています。(図3-4)

【図3-4-1 住宅を選ぶ際に気になる項目（性別）】



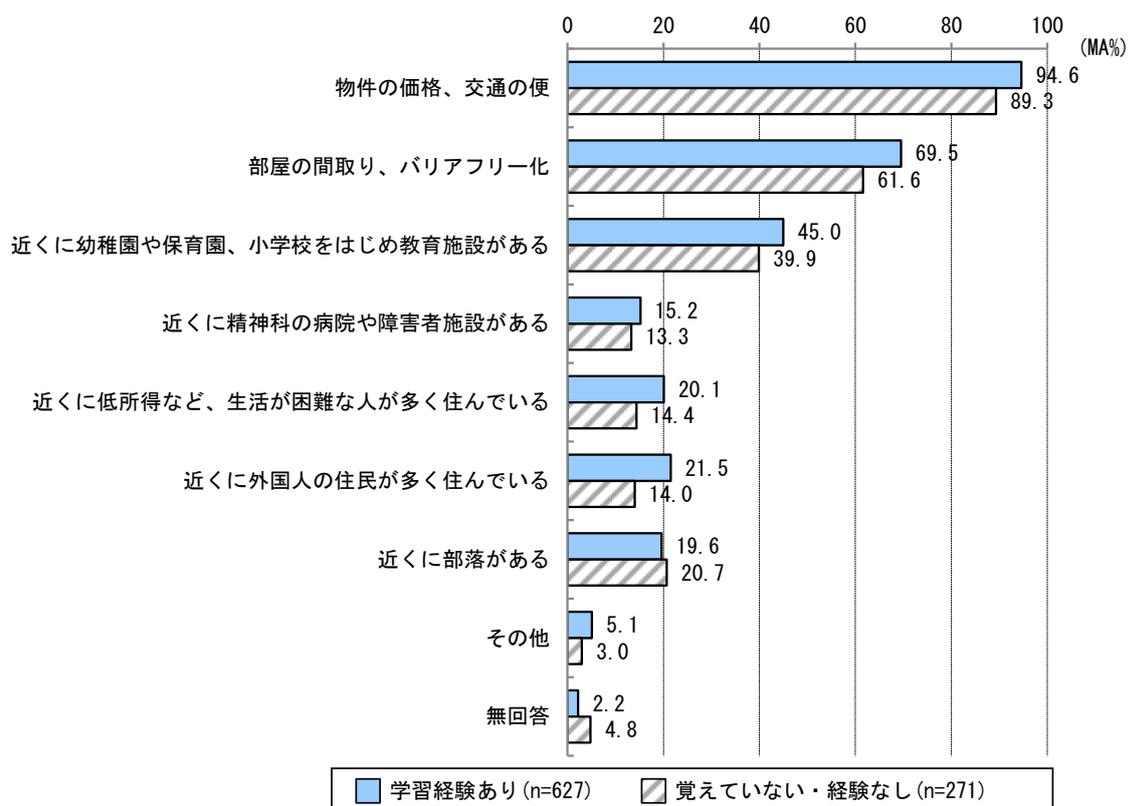
性別で見ると、いずれの項目も、女性が、男性に比べて高い割合になっており、なかでも「部屋の間取り、バリアフリー化」が11.6ポイント差となっています。（図3-4-1）

【図3-4-2 住宅を選ぶ際に気になる項目（年代別）】



年代別で見ると、「近くに幼稚園や保育園、小学校をはじめ教育施設がある」では、50歳未満の各年代で50%程度となっており、50歳以降の各年代と比べて高い割合になっています。また、40歳代では「近くに外国人の住民が多く住んでいる」と「近くに部落がある」がともに29.7%で、他の年代と比べて高い割合になっています。（図3-4-2）

【図3-4-3 住宅を選ぶ際に気になる項目（人権問題についての学習経験の有無別）】

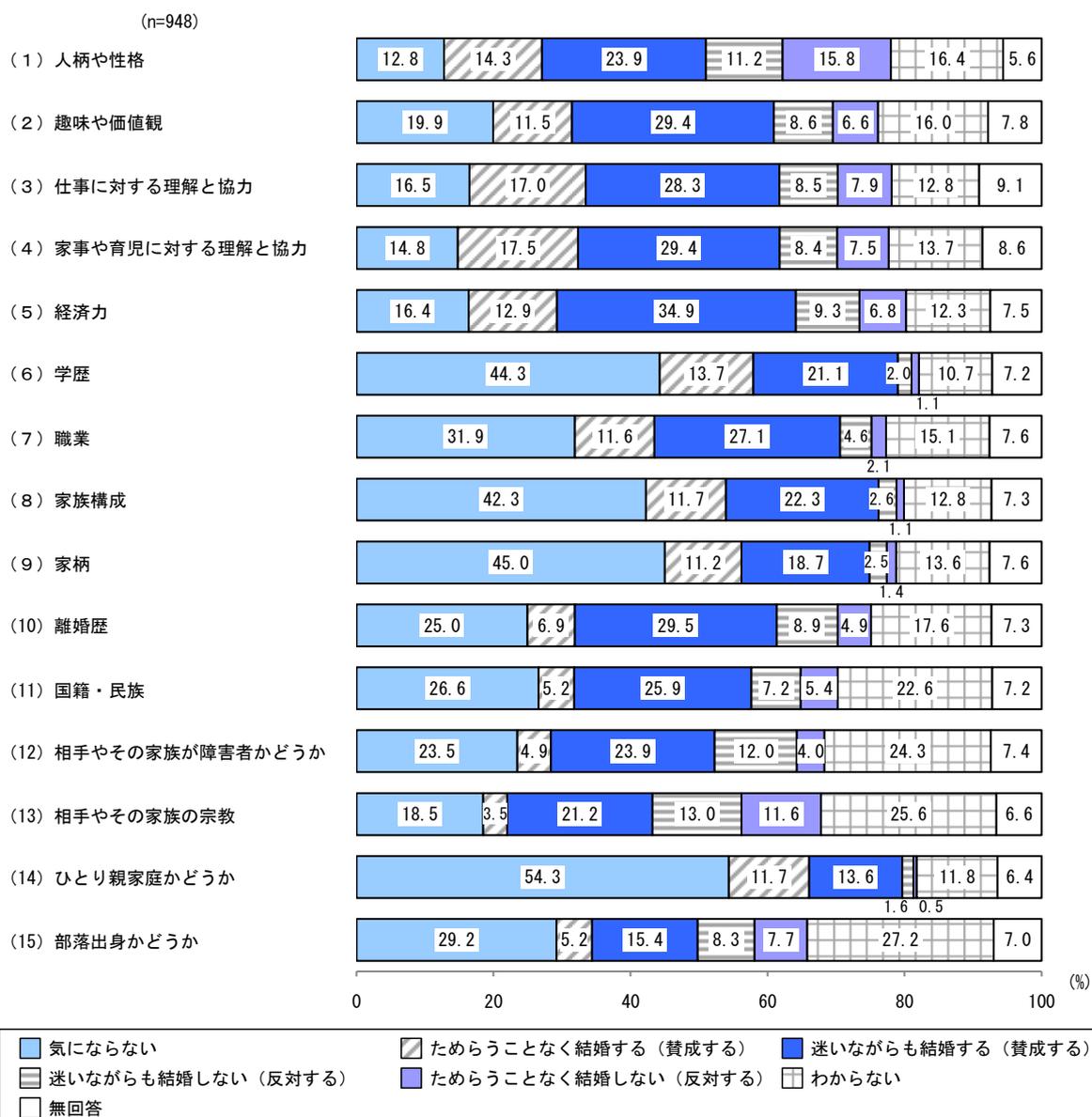


人権問題についての学習経験の有無別でみると、多くの項目で、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合になっており、なかでも「部屋の間取り、バリアフリー化」は7.9ポイント差、「近くに外国人の住民が多く住んでいる」は7.5ポイント差となっています。また、「近くに部落がある」では、学習経験の有無にかかわらず20%程度となっており、大きな差はみられません。（図3-4-3）

## (5) 自身や家族の結婚相手で気になる点

問12 あなた自身またはあなたの家族の結婚相手について、次の項目だけで考えたとき、どのように思いますか。  
(気にならない場合は1に、気になる場合は2～6の中からひとつに○)

【図3-5 自身や家族の結婚相手で気になる点】



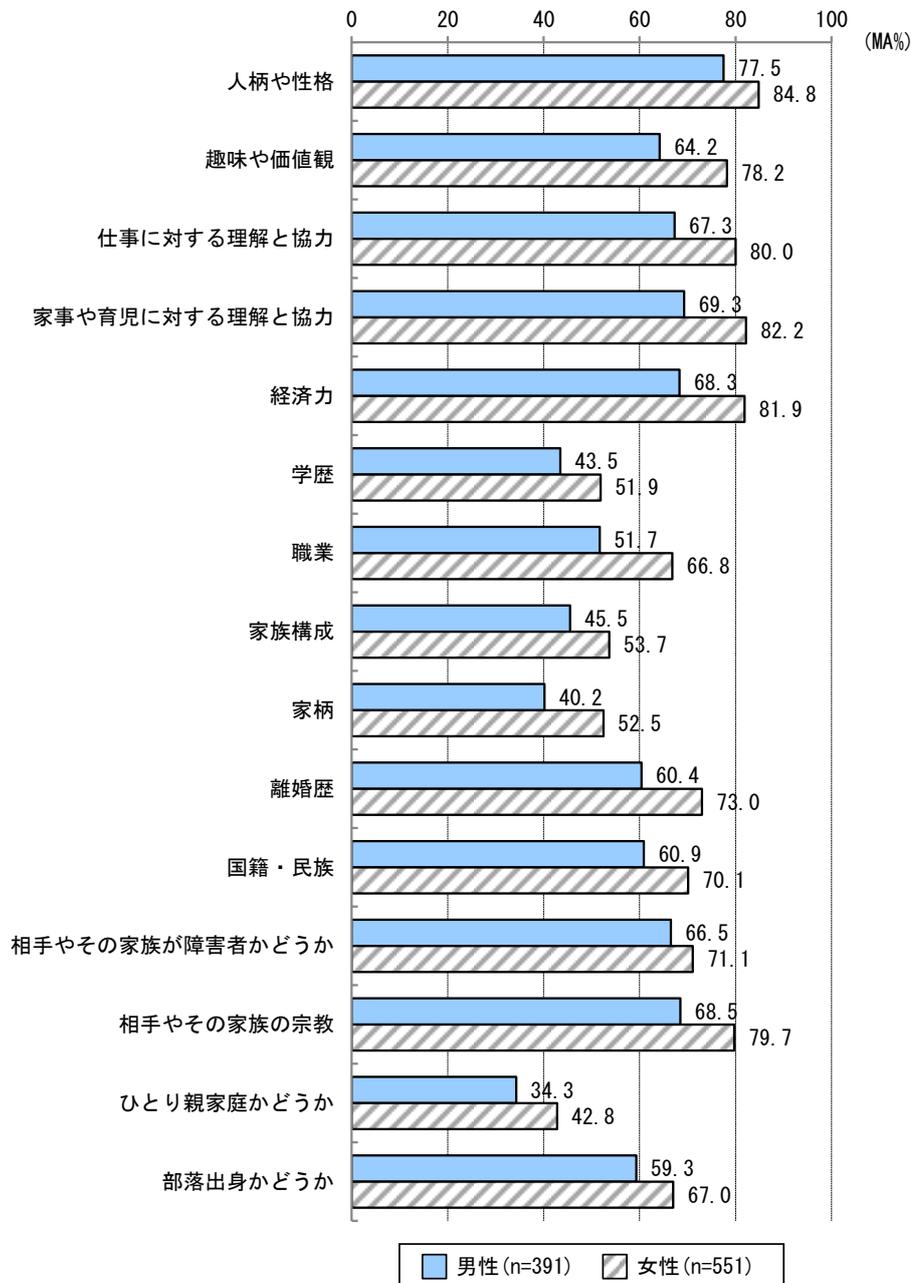
自身や家族の結婚相手で気になる点について、“(6) 学歴” “(7) 職業” “(8) 家族構成” “(9) 家柄” “(11) 国籍・民族” “(14) ひとり親家庭かどうか” “(15) 部落出身かどうか” は「気にならない」が最も多くなっています。

“(1) 人柄や性格” “(2) 趣味や価値観” “(3) 仕事に対する理解と協力” “(4) 家事や育児に対する理解と協力” “(5) 経済力” “(10) 離婚歴” は「迷いながらも結婚する (賛成する)」が最も多くなっています。

“(12) 相手やその家族が障害者かどうか” “(13) 相手やその家族の宗教” は「わからない」が最も多く、次いで「迷いながらも結婚する (賛成する)」となっています。

なお、『結婚しない (「迷いながらも結婚しない (反対する)」 + 「ためらうことなく結婚しない (反対する)」)』の割合では、いずれの項目も30%未満となっています。(図3-5)

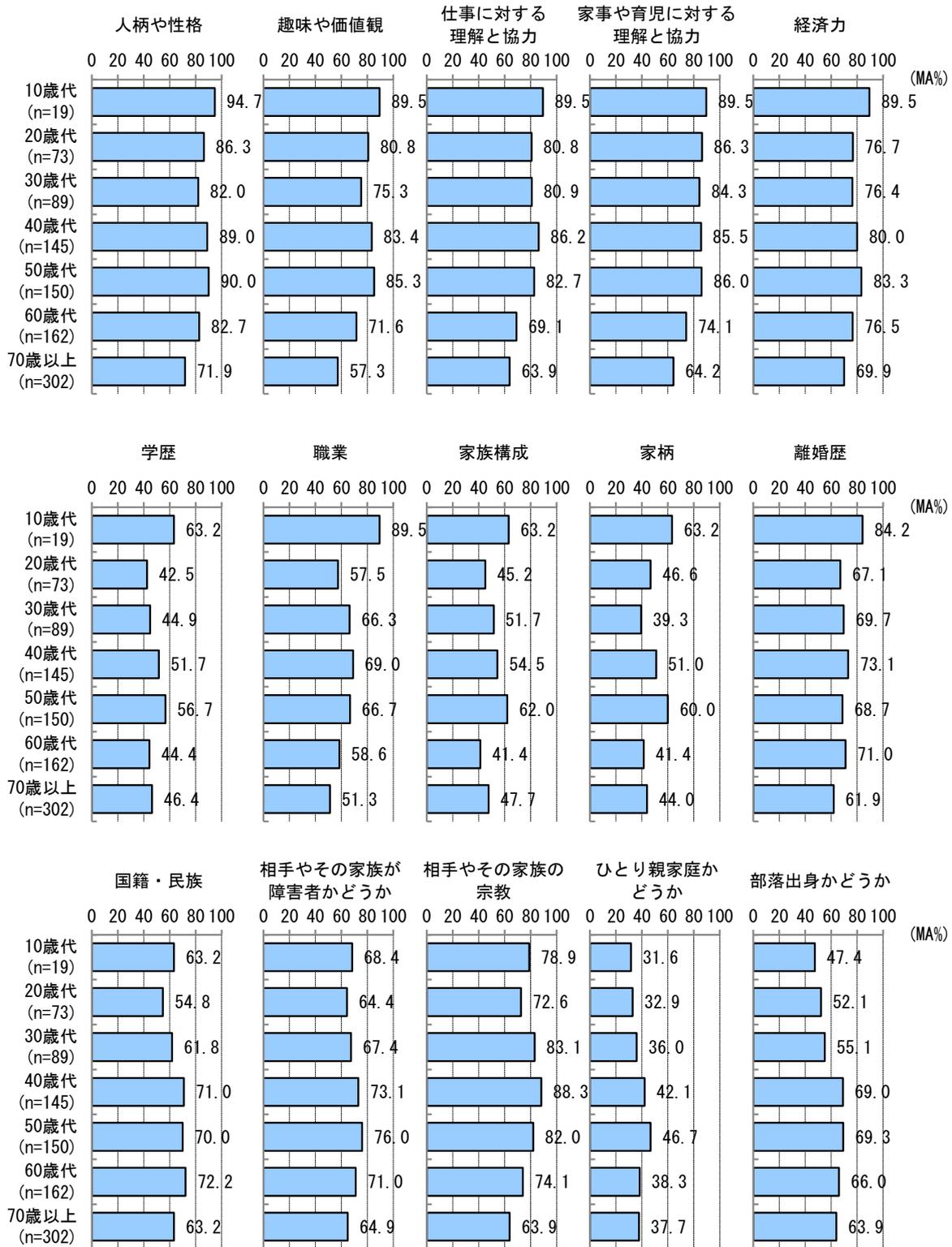
【図3-5-1 自身や家族の結婚相手で気になる点（性別）】



※「賛成する」「反対する」「わからない」の回答を『気になる』とした割合。

自身や家族の結婚相手で気になる（「賛成する」「反対する」「わからない」と回答した人を、性別で見ると、男性では「人柄や性格」が77.5%で最も多く、次いで「家事や育児に対する理解と協力」が69.3%、「相手やその家族の宗教」が68.5%となっています。一方、女性では「人柄や性格」が84.8%で最も多く、次いで「家事や育児に対する理解と協力」が82.2%、「経済力」が81.9%となっています。また、いずれの項目も、女性が、男性と比べて高い割合になっています。（図3-5-1）

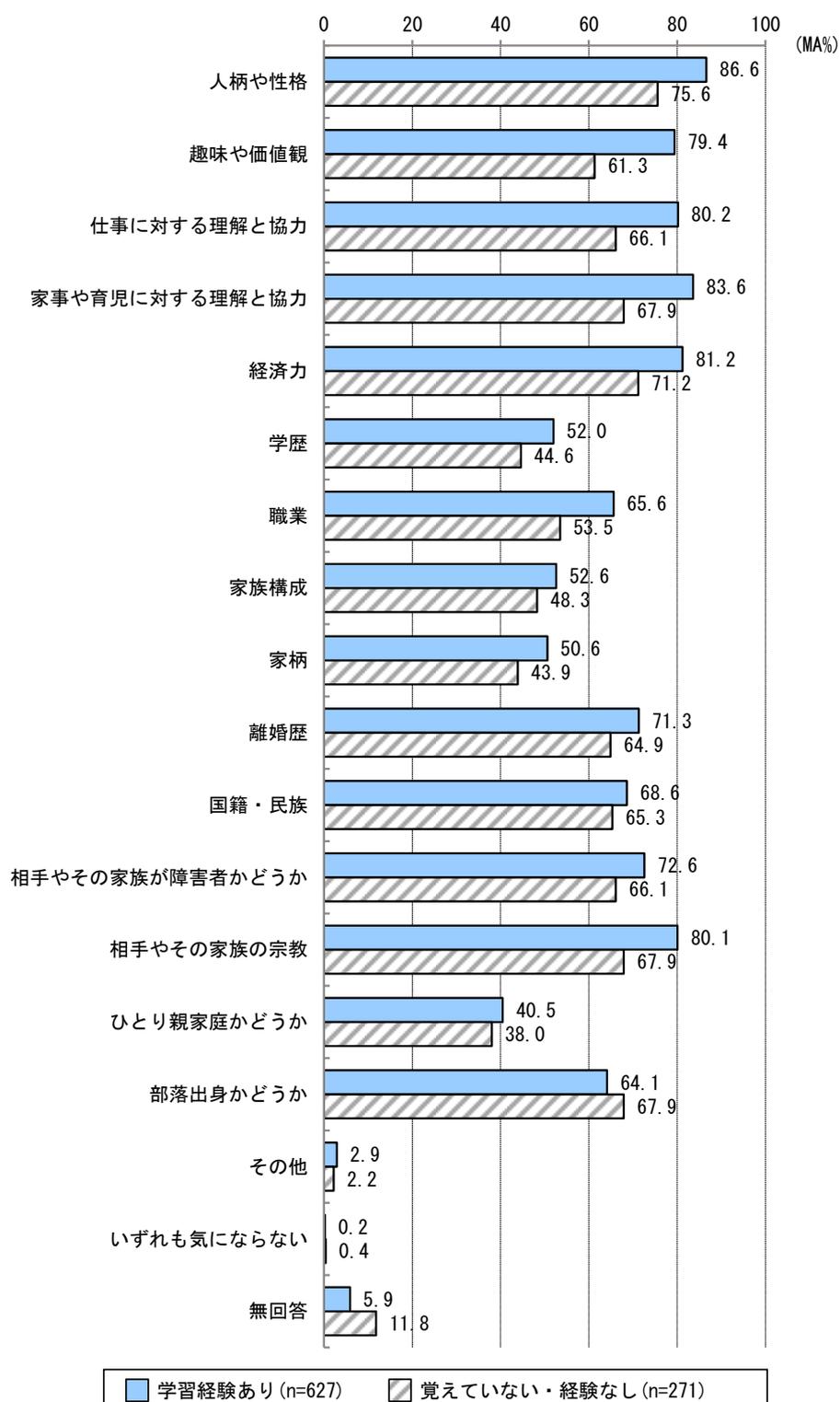
【図3-5-2 自身や家族の結婚相手で気になる点（年代別）】



※「賛成する」「反対する」「わからない」の回答を『気になる』とした割合。

自身や家族の結婚相手で気になる（「賛成する」「反対する」「わからない」と回答した人を、年代別で見ると、20歳代は「人柄や性格」と「家事や育児に対する理解と協力」が同率で最も多くなっています。30歳代は「家事や育児に対する理解と協力」が最も多く、次いで「相手やその家族の宗教」となっています。40歳以降の各年代では「人柄や性格」が最も多く、これに次いで40歳代は「相手やその家族の宗教」、50歳代は「家事や育児に対する理解と協力」、60歳代と70歳以上は「経済力」となっています。（図3-5-2）

【図3-5-3 自身や家族の結婚相手で気になる点（人権問題についての学習経験の有無別）】

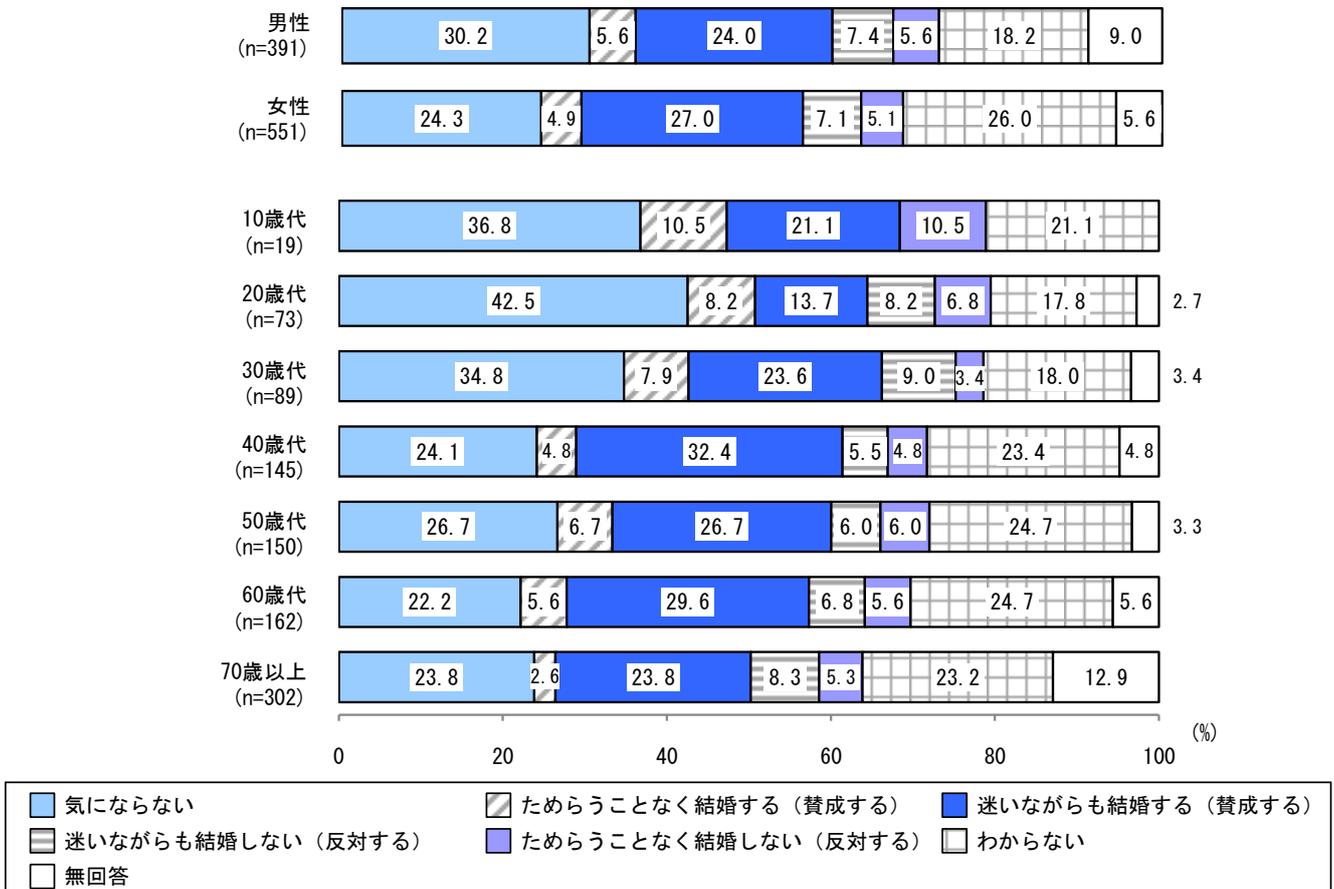


※「賛成する」「反対する」「わからない」の回答を『気になる』とした割合。

自身や家族の結婚相手で気になる（「賛成する」「反対する」「わからない」と回答した人を、人権問題についての学習経験の有無別でみると、「部落出身かどうか」では、学習経験のある人が64.1%、学習経験のない人が67.9%で、学習経験のある人のほうが3.8ポイント低い割合になっています。それ以外の項目では、学習経験のある人のほうが高い割合になっています。（図3-5-3）

<① 国籍・民族>

【図3-5①-1 自身や家族の結婚相手で気になる点（性別／年代別）】

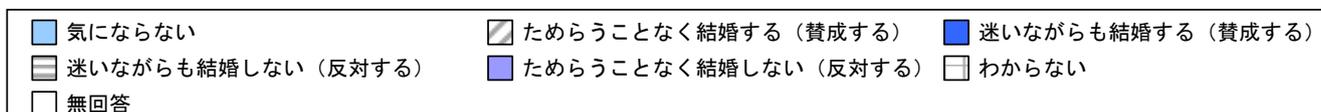
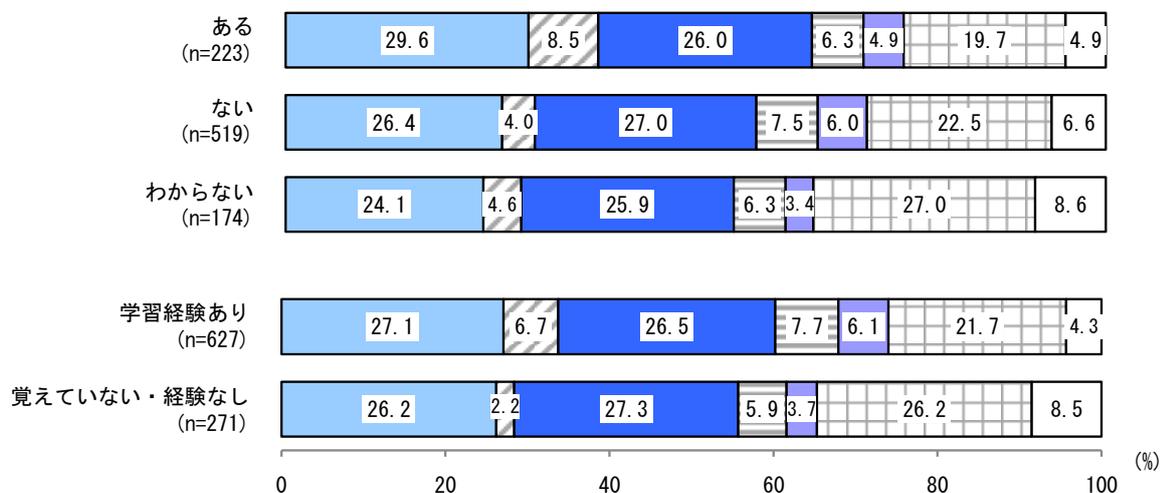


性別で見ると、男性は「気にならない」が30.2%で最も多く、次いで「迷いながらも結婚する（賛成する）」が24.0%となっています。女性は「迷いながらも結婚する（賛成する）」が27.0%で最も多く、次いで「わからない」が26.0%となっています。また、男性は女性と比べて「気にならない」が5.9ポイント差となっています。

年代別で見ると、50歳代と70歳以上では「気にならない」と「迷いながらも結婚する（賛成する）」が同率で最も多くなっています。それ以外の年代では「気にならない」が最も多くなっています。しかし、高齢になるほど「気にならない」の割合は低くなる傾向にあります。（図3-5①-1）

【図3-5①-2 自身や家族の結婚相手で気になる点

(自分の人権が侵害された経験の有無別／人権問題についての学習経験の有無別)

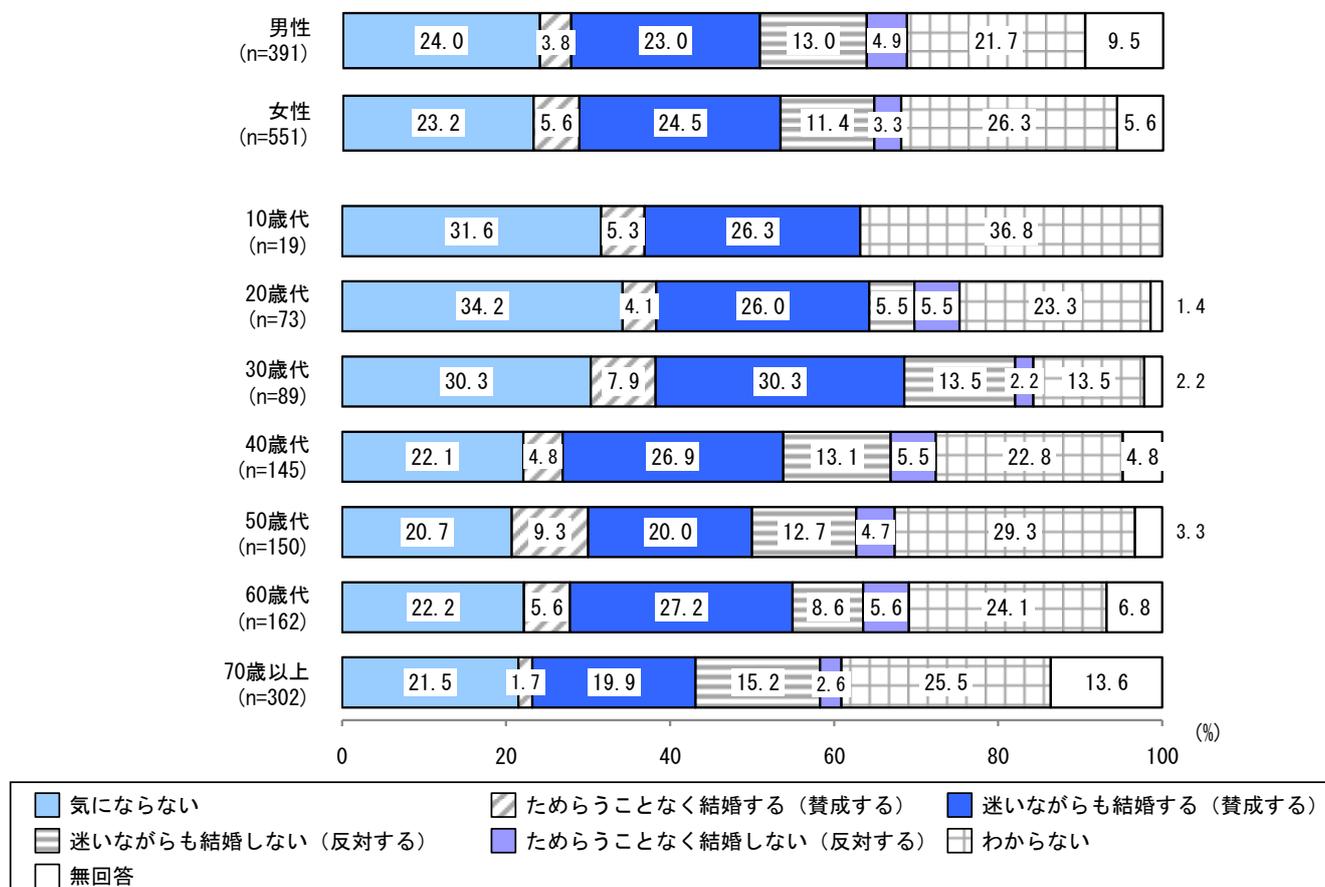


自分の人権が侵害された経験の有無別で見ると、侵害された経験のある人は「気にならない」が29.6%で最も多く、侵害された経験のない人は「迷いながらも結婚する (賛成する)」が27.0%で最も多くなっています。また、侵害された経験のある人は、侵害された経験のない人と比べて「気にならない」が3.2ポイント差、「ためらうことなく結婚する (賛成する)」が4.5ポイント差で高い割合になっています。

人権問題についての学習経験の有無別で見ると、学習経験のある人は「気にならない」が27.1%で最も多く、学習経験のない人は「迷いながらも結婚する (賛成する)」が27.3%で最も多くなっています。また、学習経験の有無にかかわらず「気にならない」の割合では大きな差はみられません。学習経験のある人では、「ためらうことなく結婚する (賛成する)」が6.7%で、学習経験のない人 (2.2%) と比べて4.5ポイント高い割合になっていますが、『結婚しない』割合は13.8%で、学習経験のない人 (9.6%) と比べて4.2ポイント高い割合になっています。(図3-5①-2)

<② 相手やその家族が障害者かどうか>

【図3-5②-1 自身や家族の結婚相手で気になる点（性別／年代別）】

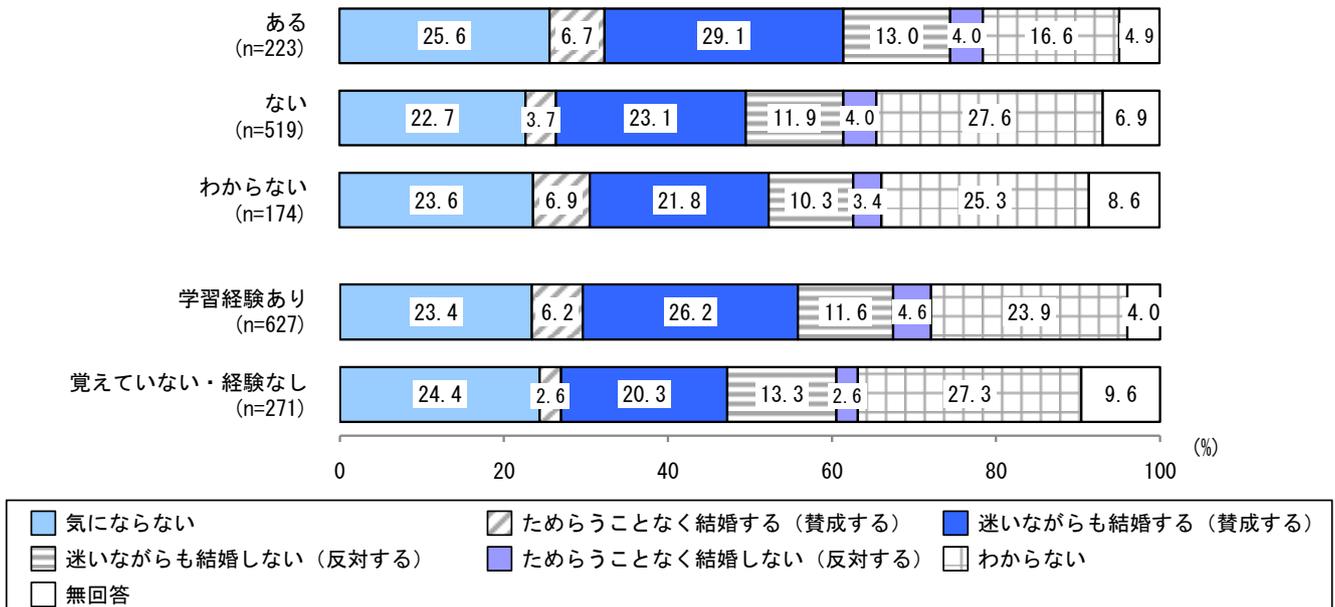


性別で見ると、男性は「気にならない」が24.0%で最も多く、女性は「わからない」が26.3%で最も多くなっています。また、「気にならない」の割合は、男女間に大きな差はみられません。しかし、『結婚しない』割合では、男性が17.9%、女性が14.7%で、男性のほうが3.2ポイント高い割合になっています。

年代別で見ると、20歳代は「気にならない」が最も多く、30歳代では「気にならない」と「迷いながらも結婚する（賛成する）」が同率で最も多くなっています。40歳代と60歳代は「迷いながらも結婚する（賛成する）」、50歳代と70歳以上は「わからない」が、それぞれ最も多くなっています。また、「気にならない」では、40歳未満の各年代で30%台となっていますが、40歳以上になると20%台と低くなります。（図3-5②-1）

【図3-5②-2 自身や家族の結婚相手で気になる点

(自分の人権が侵害された経験の有無別／人権問題についての学習経験の有無別)

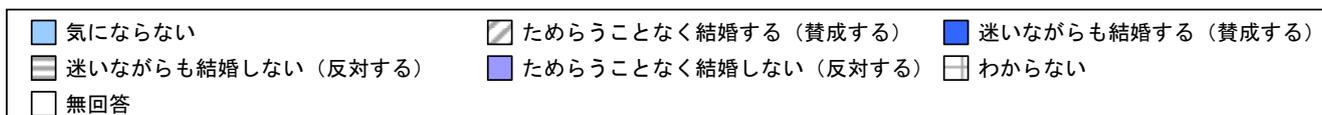
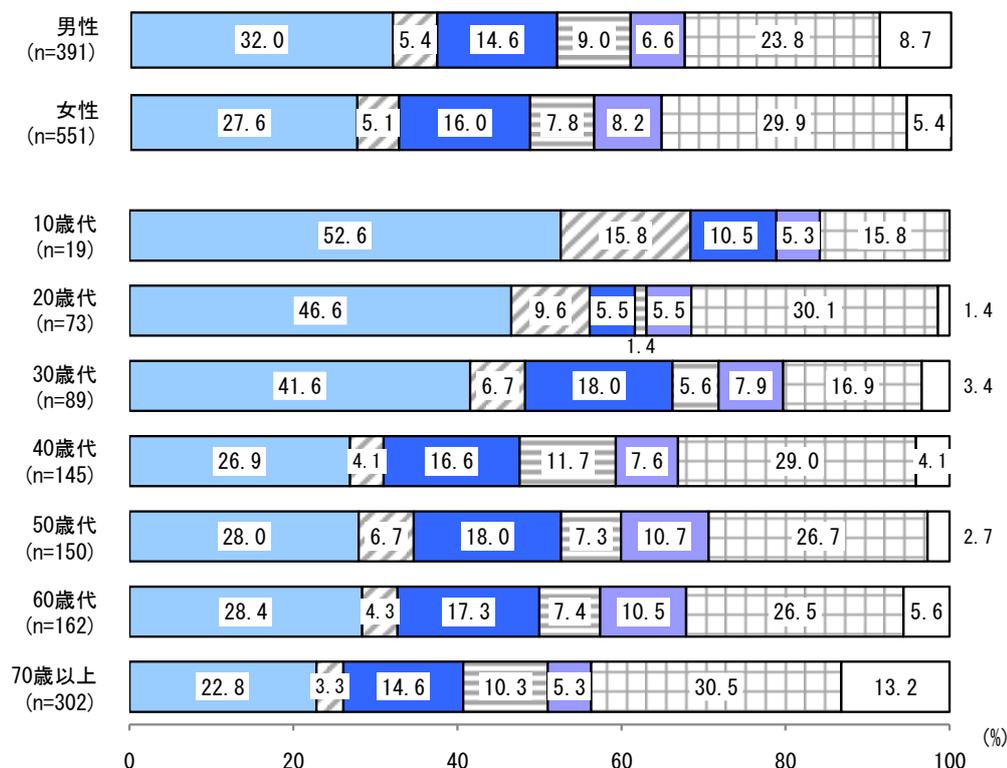


自分の人権が侵害された経験の有無別で見ると、侵害された経験のある人は「迷いながらも結婚する（賛成する）」が29.1%で最も多く、侵害された経験のない人は「わからない」が27.6%で最も多くなっています。また、侵害された経験のある人は、侵害された経験のない人と比べて「気にならない」の割合が2.9ポイント差、『気になるが結婚する（「ためらうことなく結婚する（賛成する）」＋「迷いながらも結婚する（賛成する）」』割合が9.0ポイント差で高い割合になっています。

人権問題についての学習経験の有無別で見ると、学習経験のある人は「迷いながらも結婚する（賛成する）」が26.2%で最も多く、学習経験のない人は「わからない」が27.3%で最も多くなっています。また、「気にならない」の割合では、学習経験の有無に大きな差はみられません。しかし、『気になるが結婚する』割合では、学習経験のある人が32.4%となっており、学習経験のない人（22.9%）と比べて9.5ポイント高い割合になっています。（図3-5②-2）

### <③ 部落出身かどうか>

【図3-5③-1 自身や家族の結婚相手で気になる点（性別／年代別）】

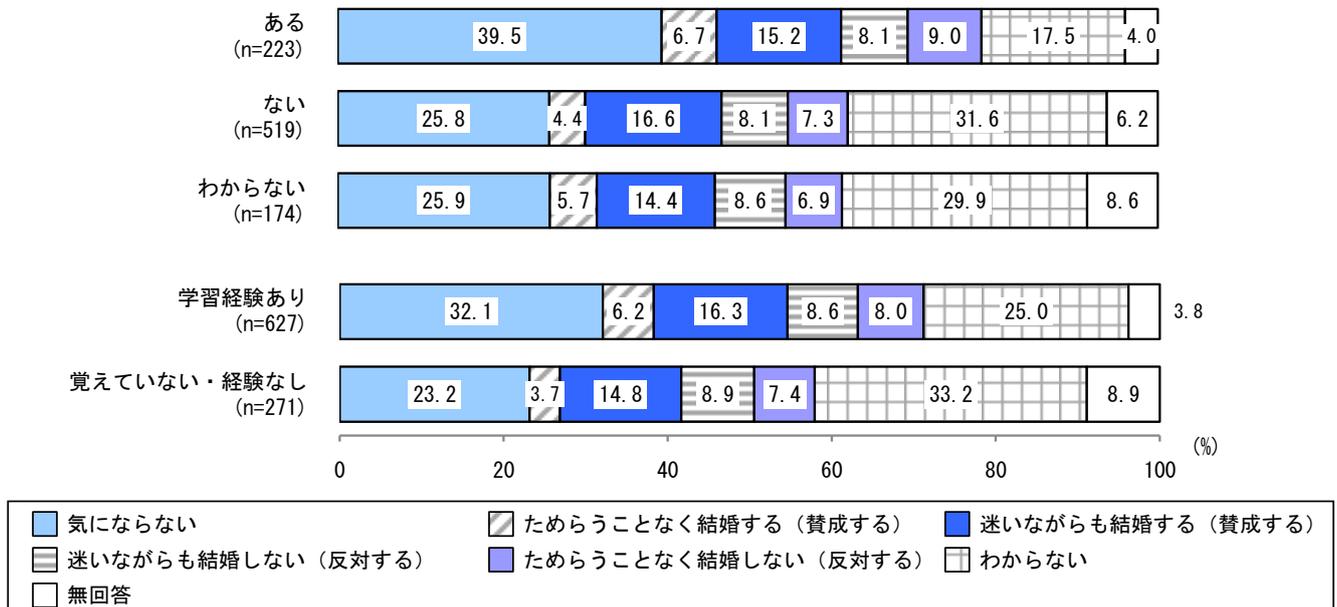


性別で見ると、男性は「気にならない」が32.0%で最も多く、女性は「わからない」が29.9%で最も多くなっています。また、男性は女性と比べて「気にならない」が4.4ポイント高い割合になっています。

年代別で見ると、40歳代と70歳以上は「わからない」が最も多く、それ以外の年代では「気にならない」が最も多くなっています。また、「気にならない」では、40歳以降の各年代が20%台に対し、40歳未満では40%以上と高い割合になっています。（図3-5③-1）

【図3-5③-2 自身や家族の結婚相手で気になる点

(自分の人権が侵害された経験の有無別／人権問題についての学習経験の有無別)



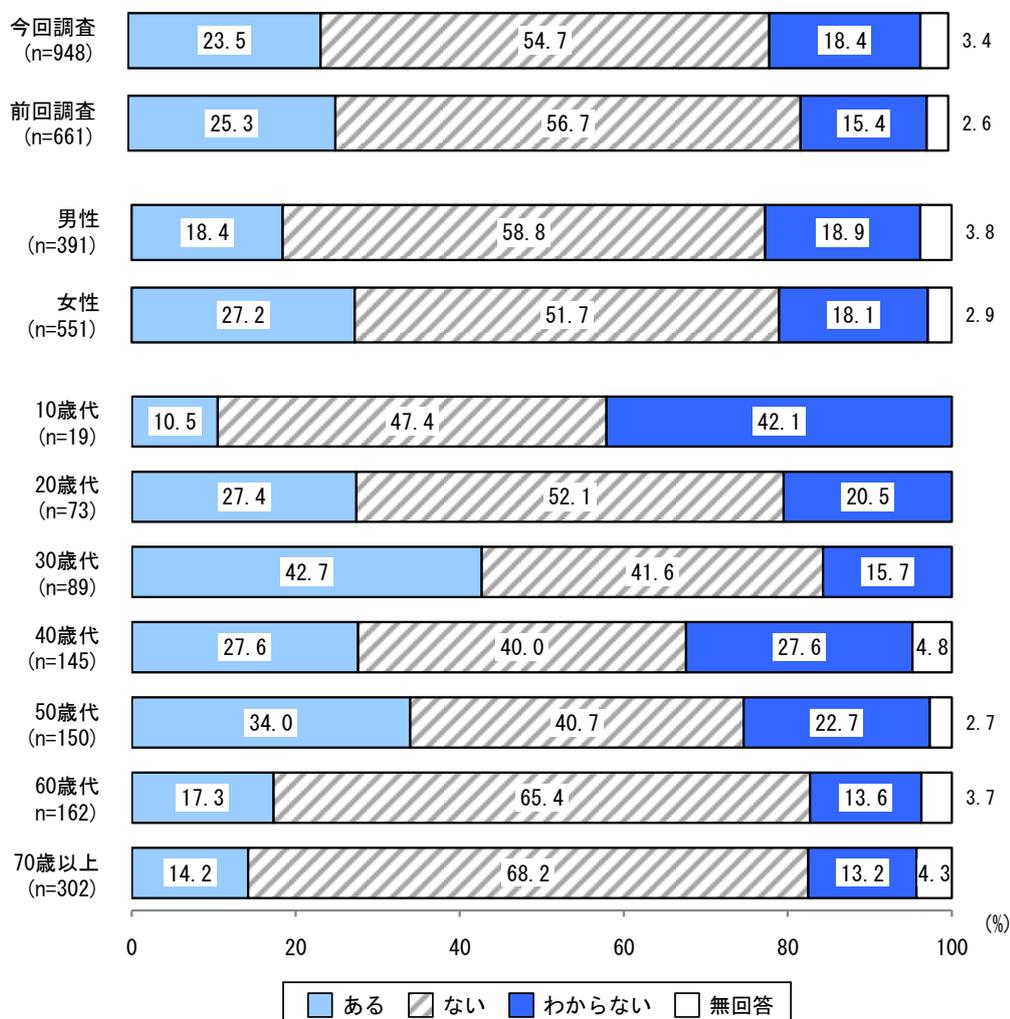
自分の人権が侵害された経験の有無別で見ると、侵害された経験のある人は「気にならない」が39.5%で最も多く、侵害された経験のない人は「わからない」が31.6%で最も多くなっています。また、「気にならない」の割合では、侵害された経験のある人は、侵害された経験のない人と比べて13.7ポイント高い割合になっています。

人権問題についての学習経験の有無別で見ると、学習経験のある人は「気にならない」が32.1%で最も多く、学習経験のない人は「わからない」が33.2%で最も多くなっています。また、「気にならない」の割合では、学習経験のある人は、学習経験のない人と比べて8.9ポイント高い割合になっています。(図3-5③-2)

## (6) 自己的人権が侵害されたと思ったことの有無

問13 あなたは、今までに、自己的人権が侵害されたと思ったことがありますか。  
(ひとつに○)

【図3-6-1 自己的人権が侵害されたと思ったことの有無（経年比較／性別／年代別）】



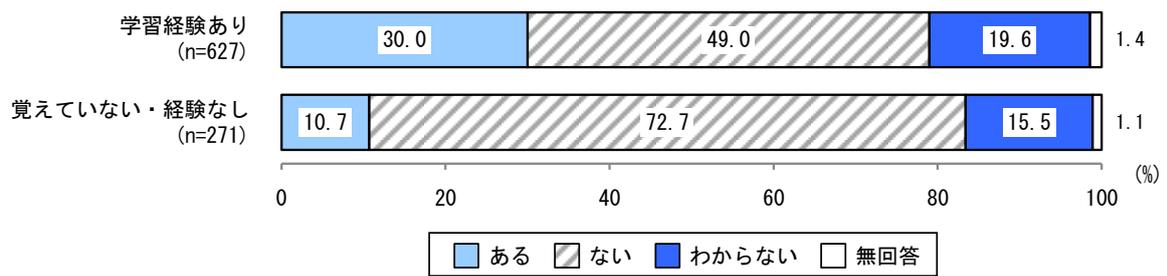
今までに、自己的人権が侵害されたと思ったことがあるかについて、「ある」が23.5%となっています。

前回調査と比較しても、大きな変化はみられません。

性別で見ると、「ある」の割合は、男性が18.4%、女性が27.2%で、女性のほうが8.8ポイント高い割合になっています。

年代別で見ると、「ある」の割合は、30歳代が42.7%で最も高く、次いで50歳代が34.0%、40歳代が27.6%、20歳代が27.4%となっています。(図3-6-1)

【図3-6-2 自分の人権が侵害されたと思ったことの有無（人権問題についての学習経験の有無別）】



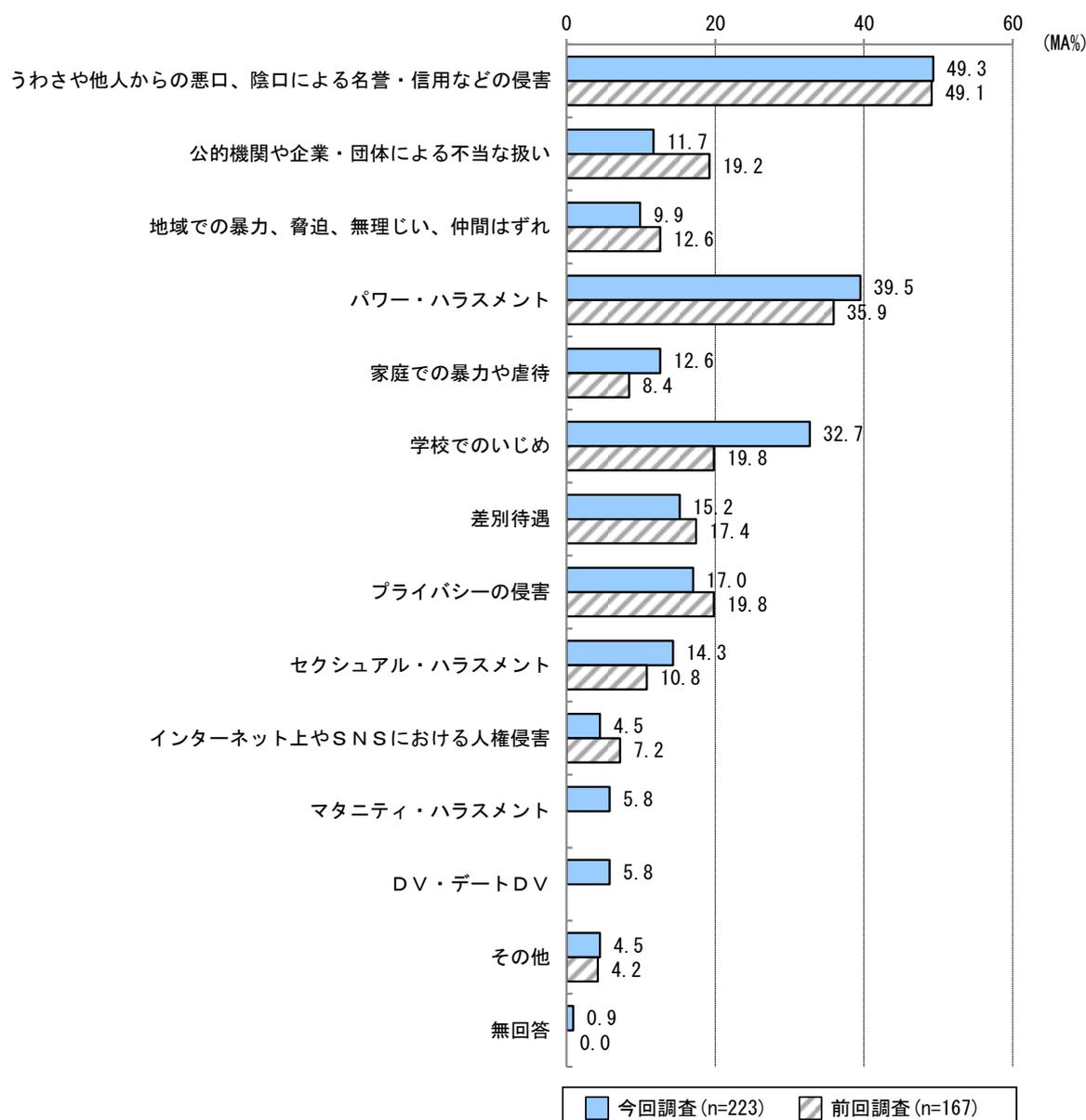
人権問題についての学習経験の有無別でみると、「ある」の割合は、学習経験のある人で30.0%、学習経験のない人で10.7%となっており、学習経験のある人のほうが19.3ポイント高い割合になっています。（図3-6-2）

## (7) 自分が経験した人権侵害

問13-1 問13で「ある」を選ばれた方

それは、どのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

【図3-7 自分が経験した人権侵害（経年比較）】

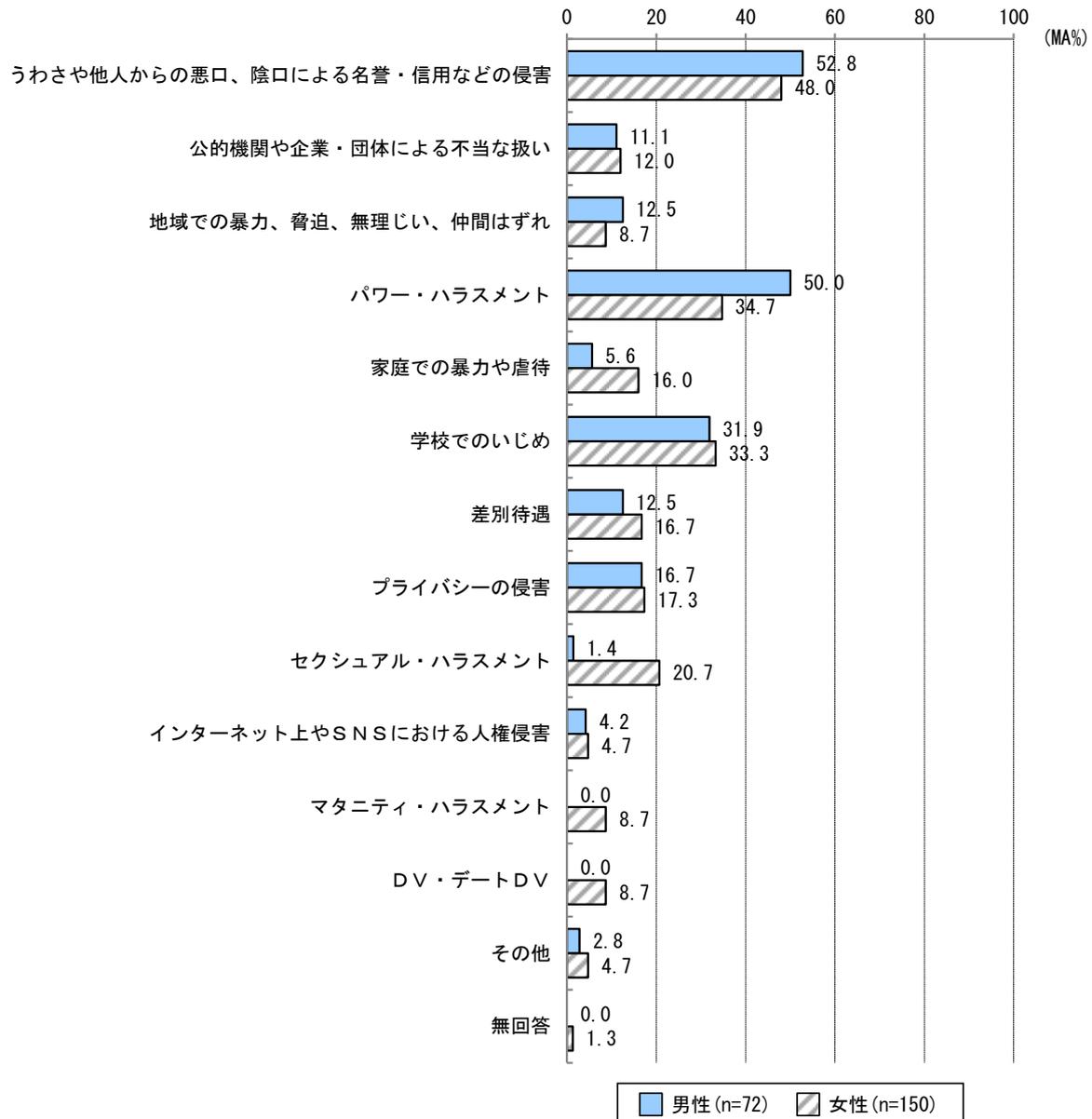


※「マタニティ・ハラスメント」「DV・デートDV」は今回調査の新規項目。

人権を侵害されたと思ったことがあると回答した人に、その内容をたずねると、「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」が49.3%で最も多く、次いで「パワー・ハラスメント」が39.5%、「学校でのいじめ」が32.7%となっています。

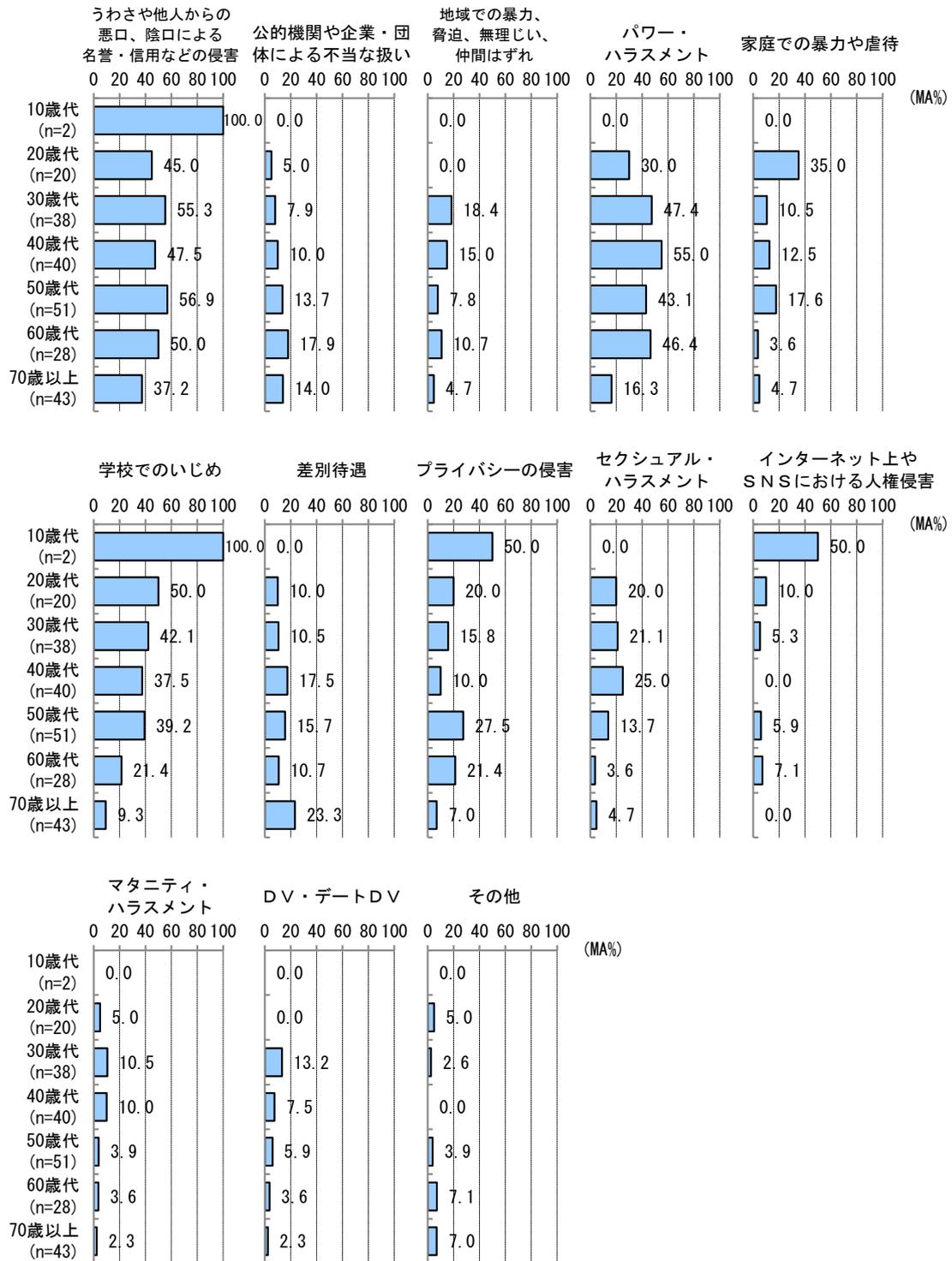
前回調査と比較すると、「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」はほぼ同率で大きな変化はありません。なお、「公的機関や企業・団体による不当な扱い」は7.5ポイント低くなっています。一方、「学校でのいじめ」が12.9ポイント、「家庭での暴力や虐待」が4.2ポイント、「パワー・ハラスメント」が3.6ポイント高くなっています。(図3-7)

【図3-7-1 自分が経験した人権侵害（性別）】



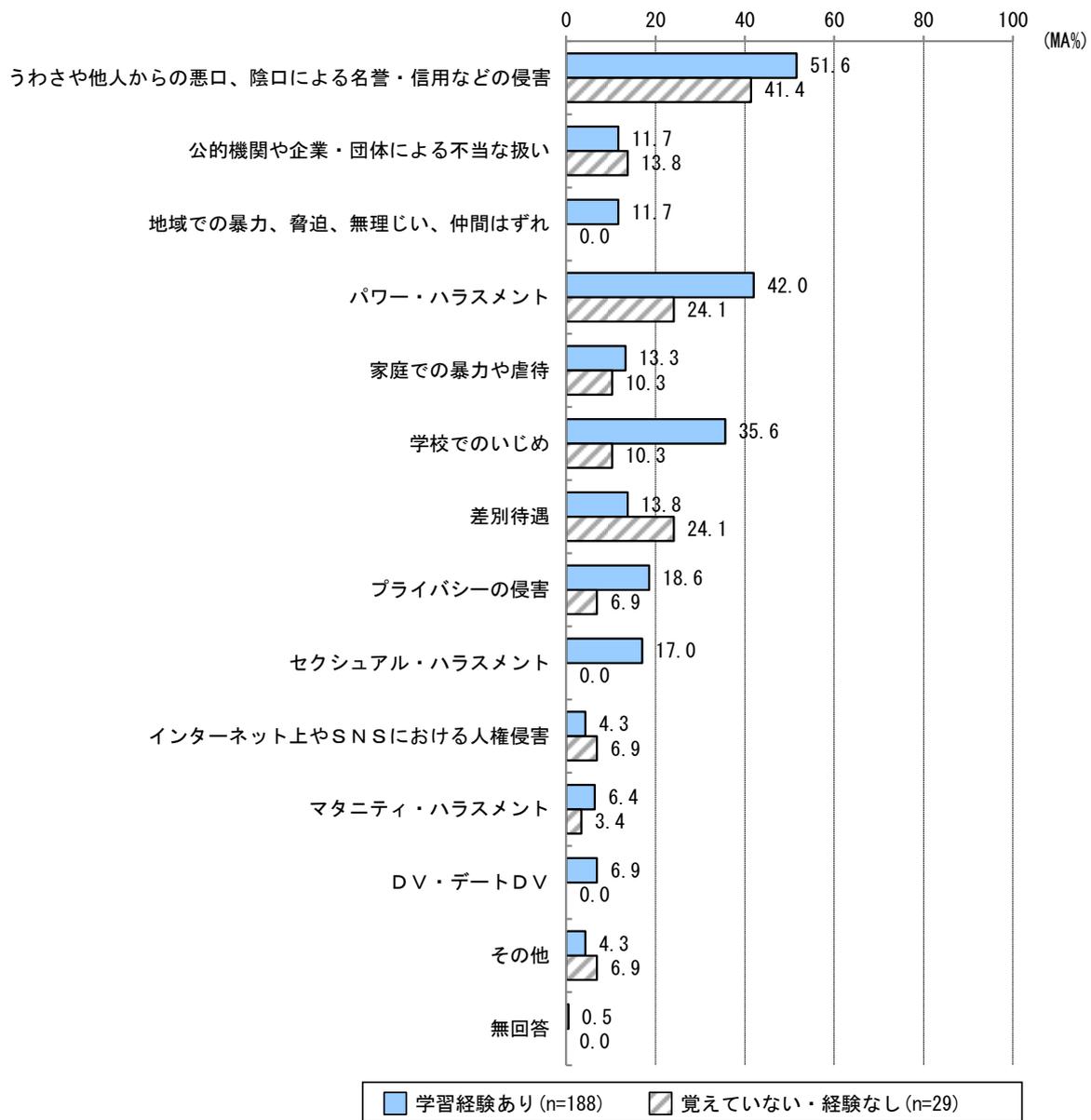
性別で見ると、男女とも上位3項目が同じ順位ですが、男性では「パワー・ハラスメント」が50.0%で、女性（34.7%）と比べて15.3ポイント高い割合になっています。一方、女性では「家庭での暴力や虐待」が16.0%で男性（5.6%）と比べて10.4ポイント高く、「セクシュアル・ハラスメント」は20.7%で男性（1.4%）と比べて19.3ポイント高い割合になっています。（図3-7-1）

【図3-7-2 自分が経験した人権侵害（年代別）】



年代別でみると、いずれの年代も母数が少ないので一概には言えませんが、「学校でのいじめ」では、若い年代ほど割合が高くなる傾向にあります。また、年代間で比較的高い割合の項目として、20歳代は「家庭での暴力や虐待」、30歳代は「DV・デートDV」、40歳代は「パワー・ハラズメント」と「セクシュアル・ハラズメント」、30歳代と40歳代では「マタニティ・ハラズメント」、50歳代は「プライバシーの侵害」、70歳以上は「差別待遇」が、それぞれ割合の高い傾向がみられます。(図3-7-2)

【図3-7-3 自分が経験した人権侵害（人権問題についての学習経験の有無別）】



人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて割合が10ポイント以上高い項目は、「学校でのいじめ」で25.3ポイント差、「パワー・ハラスメント」で17.9ポイント差、「セクシュアル・ハラスメント」で17.0ポイント差、「地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」と「プライバシーの侵害」がともに11.7ポイント差、「うわさや他人からの悪口、陰口による名誉・信用などの侵害」で10.2ポイント差となっています。一方、学習経験のない人が、学習経験のある人と比べて高い割合になっている項目として、「差別待遇」は10.3ポイント差となっています。（図3-7-3）

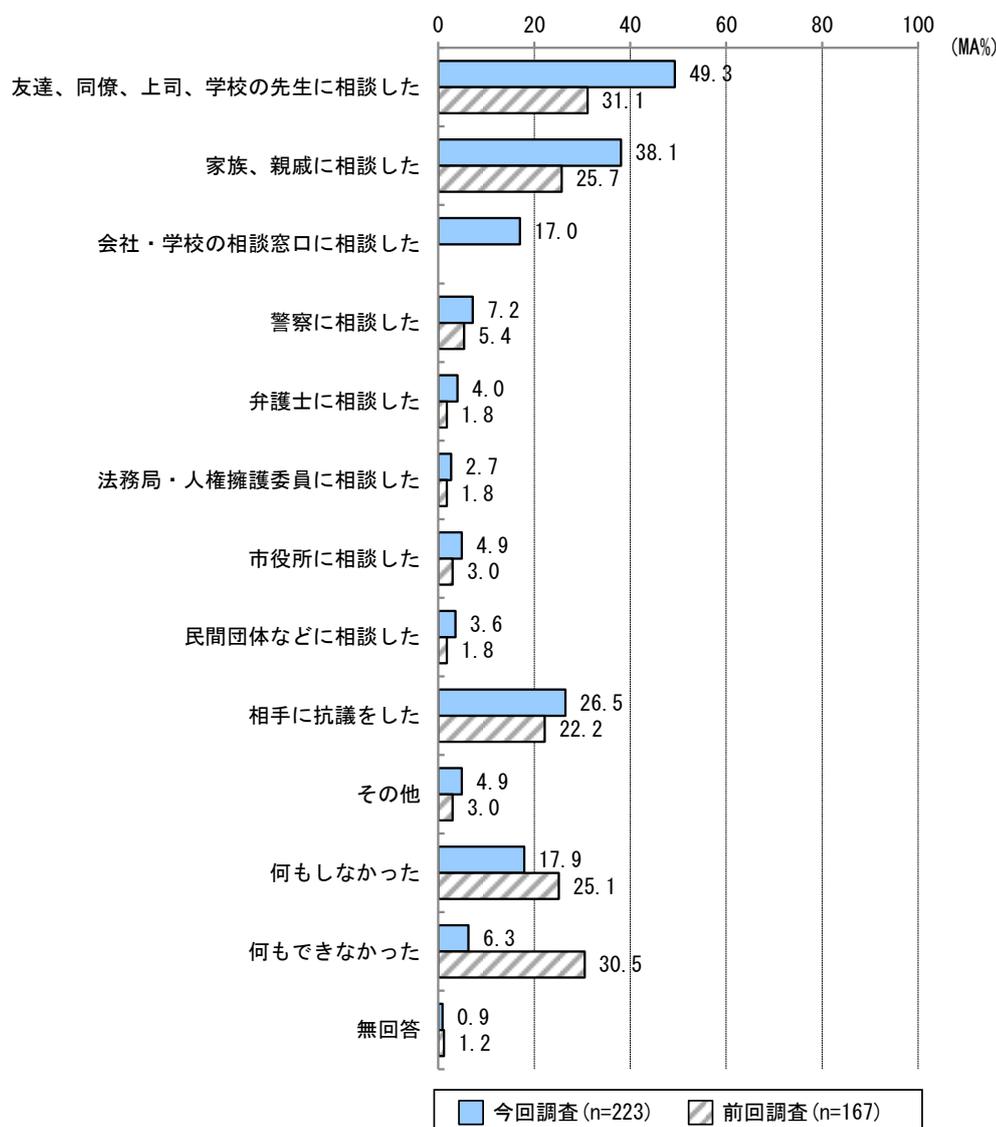
## (8) 人権侵害を受けたときの対応とその結果

### ① 人権侵害を受けたときの対応

問13-2 問13で「ある」を選ばれた方

人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)  
また、その結果はどのようになりましたか。

【図3-8① 人権侵害を受けたときの対応（経年比較）】

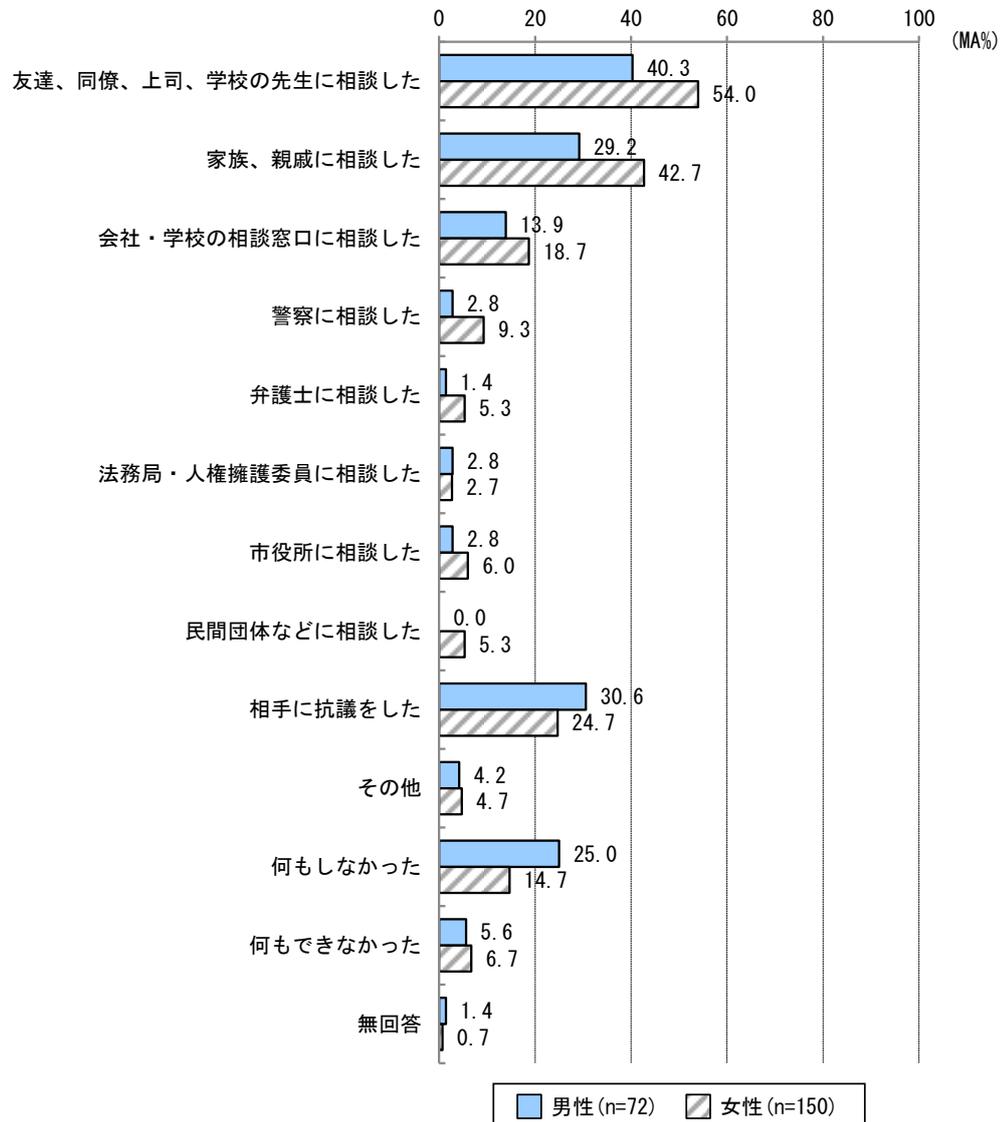


※「会社・学校の相談窓口相談した」は今回調査の新規項目。

人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人に、侵害を受けたときの対応をたずねると、「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が49.3%で最も多く、次いで「家族、親戚に相談した」が38.1%、「相手に抗議した」が26.5%となっています。

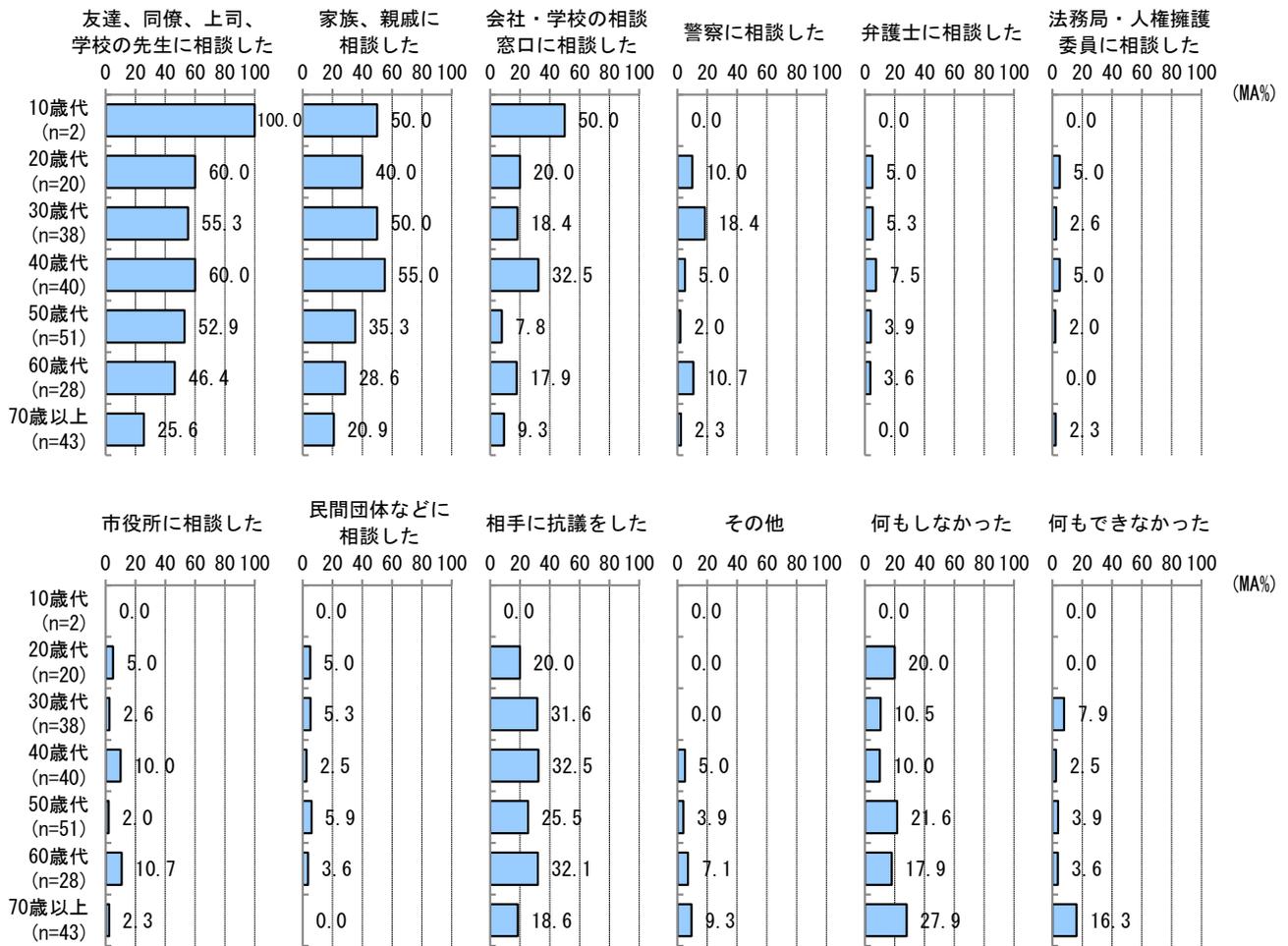
前回調査と比較すると、「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が18.2ポイント、「家族、親戚に相談した」が12.4ポイント高くなっています。また、「何もできなかった」は24.2ポイント、「何もしなかった」は7.2ポイント低くなっています。(図3-8①)

【図3-8①-1 人権侵害を受けたときの対応（性別）】



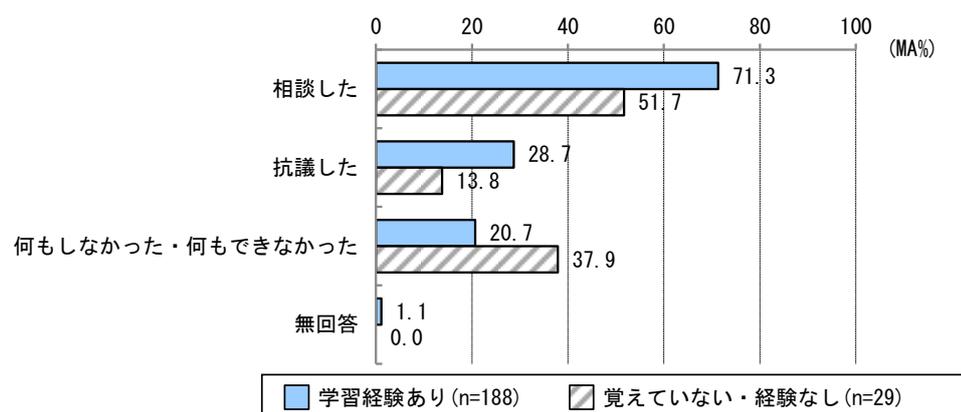
性別でみると、男女とも上位3項目は同じ順位ですが、男性では「相手に抗議をした」が30.6%で女性（24.7%）と比べて5.9ポイント高く、「何もしなかった」は25.0%で女性（14.7%）と比べて10.3ポイント高い割合になっています。一方、女性では「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が54.0%で男性（40.3%）と比べて13.7ポイント高く、「家族、親戚に相談した」は42.7%で男性（29.2%）と比べて13.5ポイント高い割合になっています。（図3-8①-1）

【図3-8①-2 人権侵害を受けたときの対応（年代別）】



年代別で見ると、いずれの年代も母数が少ないので一概には言えませんが、70歳未満の各年代は「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が最も多く、70歳以上は「何もしなかった」が最も多くなっています。また、年代間で比較的高い割合の項目として、30歳代は「警察に相談した」、40歳代は「家族、親戚に相談した」と「会社・学校の相談窓口」に相談した」が、それぞれ割合の高い傾向がみられます。(図3-8①-2)

【図3-8①-3 人権侵害を受けたときの対応（人権問題についての学習経験の有無別）】

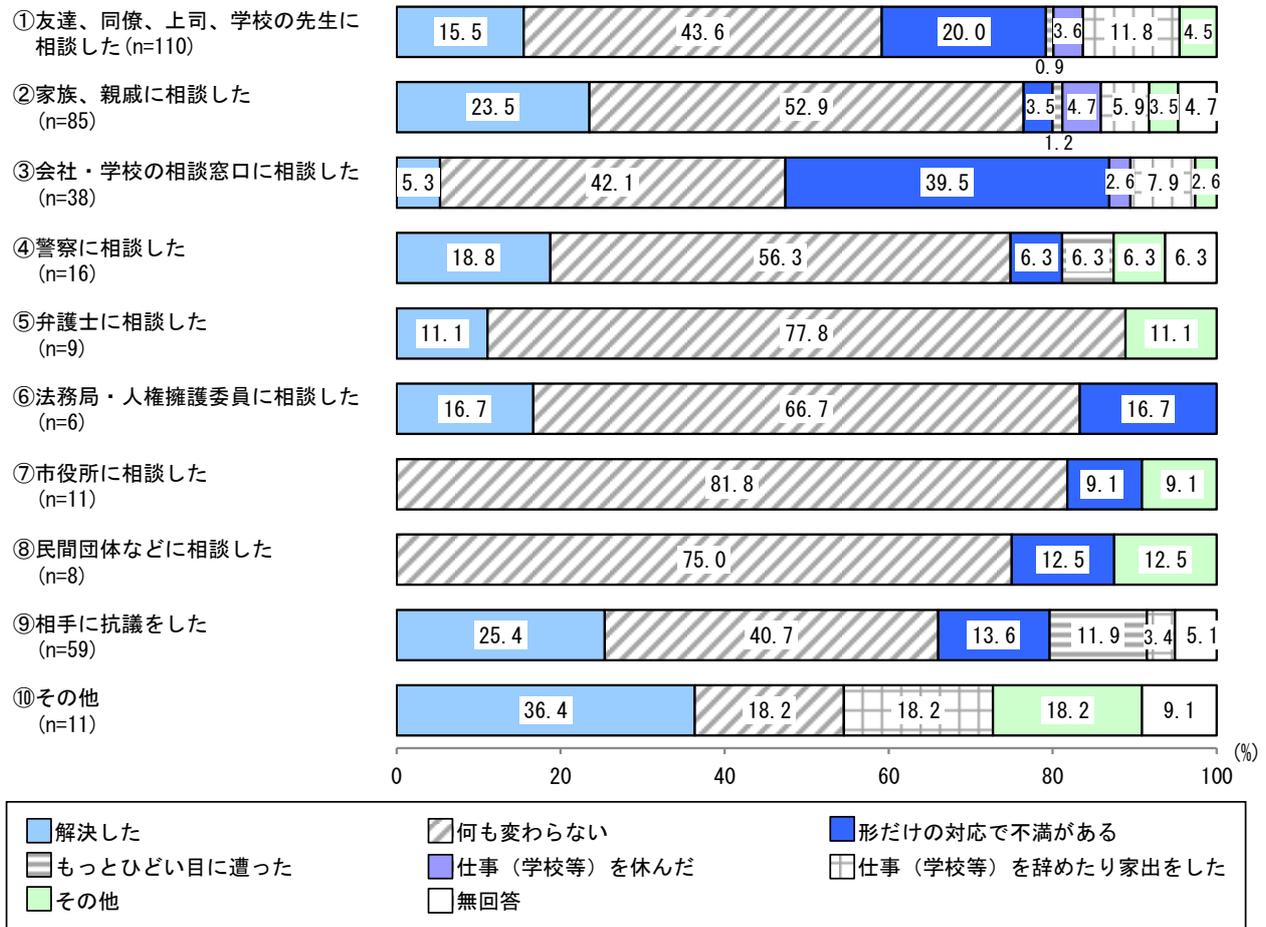


※問13-2の選択肢で、いずれかの“相談した”を選んだ回答者を「相談した」とする。

誰か、または何処かに相談したと回答した人を、「相談した」として、人権問題についての学習経験の有無別でみると、「相談した」では、学習経験のある人は71.3%、学習経験のない人は51.7%で、学習経験のある人のほうが19.6ポイント高い割合になっています。「抗議した」では、学習経験のある人は28.7%で、学習経験のない人（13.8%）と比べて14.9ポイント高い割合になっています。一方、「何もしなかった・何もできなかった」では、学習経験のない人が37.9%で、学習経験のある人（20.7%）と比べて17.2ポイント高い割合になっています。（図3-8①-3）

## ② 人権侵害を受けたときの対応による結果

【図3-8② 人権侵害を受けたときの対応による結果】



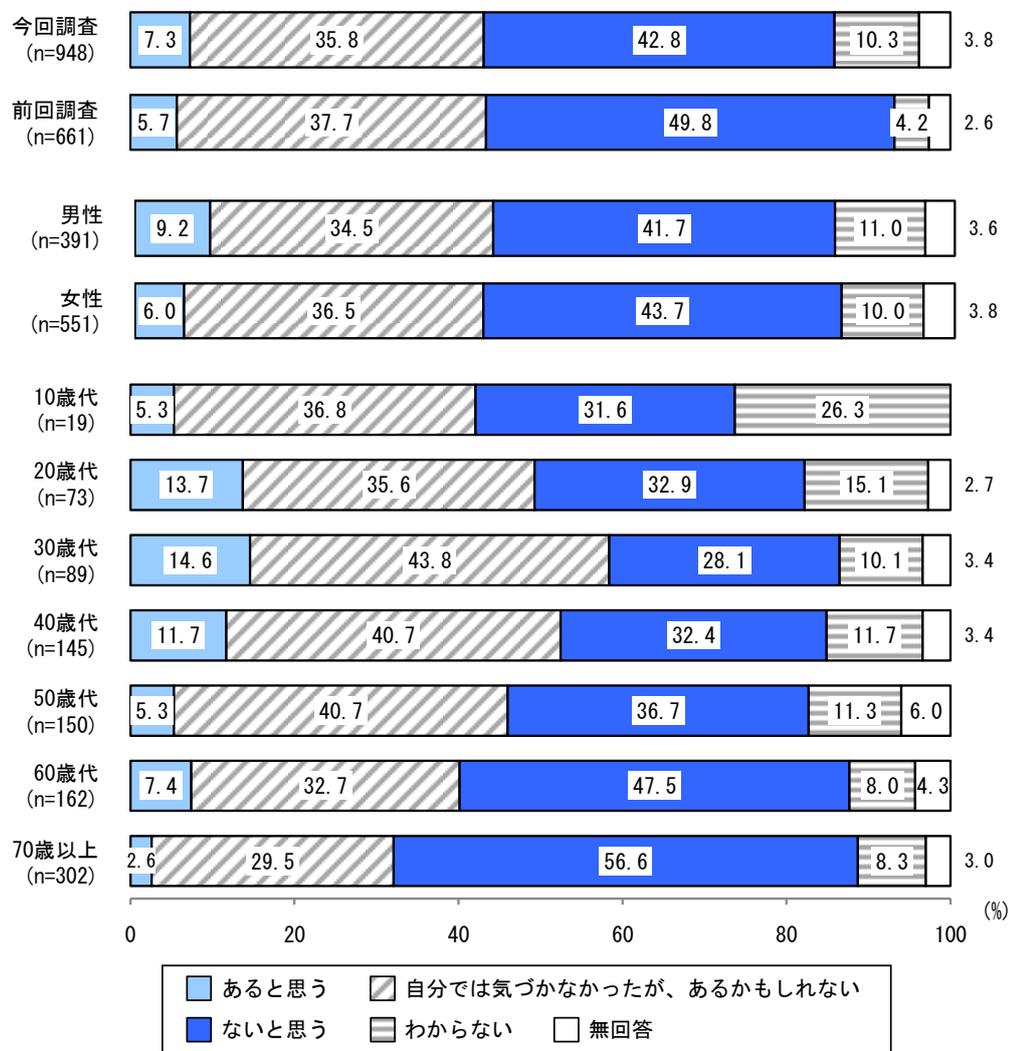
人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人に、侵害を受けたときの対応による結果をたずねると、いずれの対応も「何も変わらない」が最も多くなっています。「解決した」では、「⑨相手に抗議をした」が25.4%、「②家族、親戚に相談した」が23.5%となっており、他の対応では20%未満となっています。

一方、解決に至らなかった結果として、「①友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」は「仕事(学校等)を辞めたり家出をした」(11.8%)、「③会社・学校の相談窓口相談した」は「形だけの対応で不満がある」(39.5%)、「⑨相手に抗議をした」は「もっとひどい目に遭った」(11.9%)が、それぞれ他の対応に比べて高い割合になっています。(図3-8②)

## (9) 他人の人権を侵害したことがあると思うことの有無

問14 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。(ひとつに○)

【図3-9-1 他人の人権を侵害したことがあると思うことの有無（経年比較／性別／年代別）】



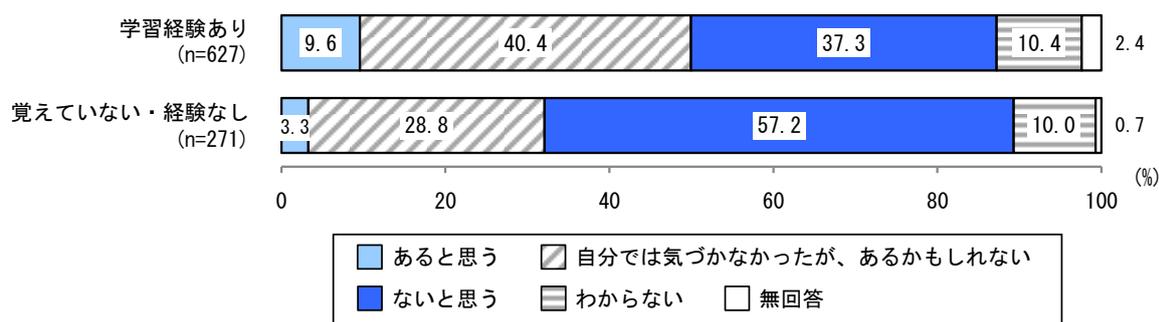
他人の人権を侵害したことがあると思うかについて、「ないと思う」が42.8%で最も多く、次いで「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が35.8%、「わからない」が10.3%、「あると思う」は7.3%となっています。

前回調査と比較すると、「あると思う」が1.6ポイント高くなっており、「ないと思う」は7.0ポイント低くなっています。

性別で見ると、「あると思う」の割合では、男性が9.2%、女性が6.0%で、男性のほうが3.2ポイント高い割合になっています。

年代別で見ると、60歳未満の各年代では「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が最も多く、60歳代と70歳以上では「ないと思う」が最も多くなっています。また、「あると思う」の割合では、30歳代が14.6%で最も高く、次いで20歳代が13.7%、40歳代が11.7%となっています。(図3-9-1)

【図3-9-2 他人の人権を侵害したことがあると思うことの有無（人権問題についての学習経験の有無別）】



人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人は「自分で気づかなかったが、あるかもしれない」が40.4%で最も多く、次いで「ないと思う」が37.3%、「あると思う」が9.6%となっています。一方、学習経験のない人は「ないと思う」が57.2%で最も多くなっており、「あると思う」は3.3%、「自分で気づかなかったが、あるかもしれない」は28.8%で、侵害した経験がある(かもしれない)割合は32.1%と約3人に1人となっています。(図3-9-2)